



## iPhone 15 / iPhone 15 Plus

前世代プロモデル並の  
機能を惜しみなく投入した  
新時代のスタンダードモデル



## iPhone 15 Pro / iPhone 15 Pro Max

写真撮影やゲーム体験を変える  
PC並のグラフィックス性能!  
史上最軽量のプレミアムモデル

2023年  
9月22日から  
発売中!

LightningコネクタがついにUSB-Cに!  
グッと使いやすく進化した今が“買いドキ”

iPhone 14 Proで登場した機能を軒並み搭載!  
大幅な強化が加えられた最強のスタンダードモデル

# iPhone 15 / 15 Plus

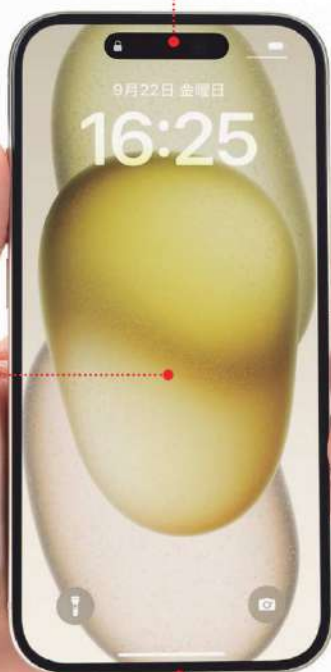
## 新機能ガイド

文・山下洋一

A16 Bionicチップで  
プロゆずりのパワーを!

Dynamic Islandで  
新世代の操作体験!

撮影性能が大きく向上した  
48MPメインカメラ搭載!



USB-Cコネクタの採用で  
周辺機器とケーブルを共用!

### 14 Proに匹敵する機能

iPhone 15/15 Plusの2モデルは、スタンダードモデルという立ち位置でありながらも、iPhone 14 Proで採用された機能が惜しみなく投入されているのが特徴です。

まず心臓部であるチップには、iPhone 14シリーズの「A15 バイオニック (Bionic)」から1世代進化した「A16 バイオニック」を搭載しました。負荷の高いゲームなどがよりスムーズに動作するほか、写真やビデオ撮影時の処理速度も向上しています。次に、液晶上部のパンチホールには「ダイナミックアイランド (Dynamic Island)」が採用され、通知の確認やアプリの操作に活用できるようになりました。さらに、メインカメラが48MP (メガピクセル) に強化されるなど、昨年iPhone 14 Proに導入されたばかりの機能や技術の数々が採用されているのです。

加えて待望のUSB-Cコネクタを搭載したことで、現行のMacやiPad、周辺機器と充電ケーブルを共用できるようになったほか、デザインが刷新されたこともポイント。機能から外観まで、大きく進化を遂げたスタンダードモデルです。



BACK



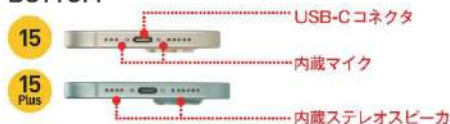
背面ガラスに最適化した二重イオン交換プロセスを施すことで耐久性が増したほか、ナノクリスタル粒子で磨き上げることでマットな質感に仕上がっています。このマット加工が施されたことで触り心地がよく、より手に馴染みやすくなりました。

TOP



iPhone 14 / 14 Plusと同様、厚みは両モデルともに7.80mmです。上部にボタンやポート類は用意されないほか、3.5mmイヤホンジャックも非搭載です。

BOTTOM



背面には、従来のような内蔵マイク、内蔵ステレオスピーカーに加えて、給電/データ転送用のUSB-Cコネクタが新たに搭載されました。

●長く使えるデザイン



デバイスを保護するIP68相当の防水防塵性能およびCeramic Shieldによる耐落下性能と美しいデザインが共存しているのが特徴。毎日使い続けながらも、デバイスの価値を維持できる設計です。

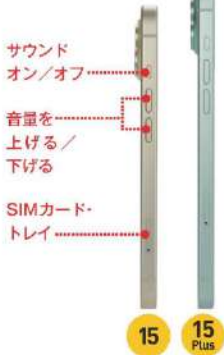
こういったアップルが誇るデザイン性に加え、デバイスの保護性能が高いこともポイントです。iPhone 12以降で共通採用される「セラミックシールド (Ceramic Shield)」でディスプレイ部の耐落下性能を向上させているほか、背面ガラスに適合させた「二重イオン交換プロセス」を施すことで、傷つきにくい設計を実現しています。

FRONT



ディスプレイはiPhone 15が6.1インチ(2556x1179ピクセル、460ppi)、iPhone 15 Plusが6.7インチ(2796 x 1290ピクセル、460ppi)。さらに、ディスプレイ前面にCeramic Shieldを採用することで耐落下性能を向上させています。

LEFT



RIGHT



両サイドのボタンとスイッチ類は、iPhone 14シリーズと同様です。デザインに関しては、エッジ部分が丸みを帯びたほか、しっとりとした質感のマット加工が施されているため、手に心地よく収まります。SIMについては、nano-SIMとeSIMのデュアルSIM対応です。

●5色の美しいカラバリを用意



カラバリは、ブラック、ブルー、グリーン、イエロー、ピンクの5色です。カラーインフューズドガラスが新たに採用されたことで、ガラス自体に色が溶け込んでいるような美しいカラーリングを実現しました。

毎日使うための進化

iPhone 15 / 15 Plusのサイズ感は前年モデルとほぼ同じですが、一部素材とデザインが刷新されたことで、従来より手に馴染みやすく、操作しやすいうようアップデートされました。まず背面の素材には、スマートフォンではじめて「カラーインフューズドガラス(色を浸透させたガラス素材)」が採用されました。ガラスに色が溶け込んだような色味が特徴的で、5色のカラバリを引き立てます。フレームには従来モデルと同様、航空宇宙産業で用いられるレベルの強度を誇るアルミニウム素材を採用しました。このフレームのエッジ部分には、カーブしたデザインが新たに採用され、デバイスを手にすると従来よりコンパクトかつ、ボタン類も押しやすくなっています。



DESIGN

文・山下洋一

背面素材とデザインが刷新され、美しさと耐久性が高次元で共存！

## ●ディテールを捉える48MPカメラ



48MPのフル解像度で撮影した風景写真。拡大すると、丘陵に並ぶ家を確認できるほど細かいディテールを捉えられます。なお、48MPセンサーで撮影できるフォーマットはこれまでApple ProRAWに限られていましたが、iPhone 15 / 15 Proではこれを搭載せず、HEIF形式で撮影します。

## ●より高速なオートフォーカス



センサーに入る光量の違いから、被写体にピントが合っているか判断する「100% Focus Pixels」とクアドピクセルセンサーによって、より高精度かつ速い速度で目的の場所にフォーカスを合わせることができます。

また48MPセンサーは、望遠

## ●メインカメラのセンサーが大型化して48MPに

### 超広角カメラ

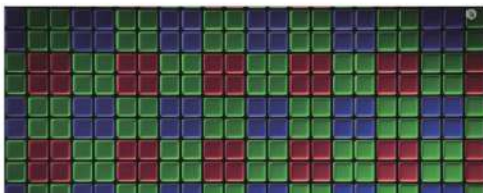
フルサイズ換算で13mmの焦点距離で、絞り値はf/2.4。水平視野角120度の広い画角で撮影できます。撮像素子は12MP（1200万画素）です。



### メインカメラ

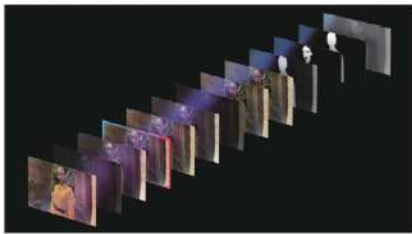
48MP（4800万画素）の撮像素子を搭載したメインカメラです。24MPおよび48MPでの超解像度撮影に対応しており、焦点距離はフルサイズ換算で26mm。絞り値はf/1.6かつ、センサーシフト光学式手ぶれ補正を搭載しています。

## ●48MPのクアドピクセルセンサーを採用



スマートフォンで一般的に採用されるイメージセンサーはベイヤー配列（緑2ピクセル+青が赤1ピクセルを並べる配列）ですが、iPhone 14 Pro / 15 / 15 Proシリーズのクアドピクセルセンサーは同色を2ピクセルずつ配置し、よりシャープに撮影できます。

## ●高画質化技術「Photonic Engine」



昨年発表のiPhone 14 Proではじめて導入された技術がPhotonic Engineです。複数フレームの映像を画素単位で比較し、機械学習データを用いることで最良の要素を組み合わせてベストな1枚を出力します。RAWデータに近い非圧縮データを用いることで、繊細なディテールを再現できるようになりました。

## 史上最強の二眼カメラ

iPhone 15シリーズのメインカメラに、48MPの「クアドピクセルセンサー」が搭載されたことは大きいトピック

です。これまで、iPhone 14プロシリーズのみが48MPと

いう高解像度での撮影に対応して

いましたが、スタンダードモデルのiPhone 15シリーズ

でも48MP撮影が可能になったのです。また、ヒーフ(HEIF)

形式での48MP撮影ができるようになったことで、48MPという

解像度の恩恵を受けながらもデータ容量を抑えて撮影できるようになりました。

アップルは、このセンサーとコンピュータショナルフォトグラフィ(イメージング技術)を組み

合わせることで、センサーの潜在能力を引き出せるよう設計

しています。たとえば、クアドピクセルセンサーは従来の4倍

の光を取り込むことができ、このセンサーが捉えた複数フレーム

のデータを「フォトリックエンジン(Photonic Engine)」技術で分析



## ●撮影後にピントを別の被写体に

撮影後にピントを別の被写体に切り変えるなど、より柔軟に編集できるようになりました。これは、より豊かな深度情報を自動で取り込めるようになったことで実現しています。



## ●高画質でコンパクトな超高解像度写真



48MP センサで細部まで捉えた画像データと Photonic Engine を組み合わせることで、豊かなディテールかつノイズの少ない写真に仕上げます。なお、iPhone 15 / 15 Plus で保存できる写真の解像度は 24MP または 12MP。24MP で保存できるのは、メインカメラを 1 倍で使ったときに限定されます。

## ●二眼カメラシステムに3つ目のカメラ



iPhone 15 / 15 Plus では、48MP センサで捉えた画像の中央 12MP を切り取ることで 2 倍望遠撮影を実現しています。iPhone 15 Pro シリーズに搭載されている望遠カメラより F 値が小さい(より光を取り込める)メインカメラを望遠撮影に使えるのは大きいメリットです。

## ●リアルな肌のトーンを捉えるスマートHDR



最新の「スマートHDR 5」が、明るいハイライト、豊かなミッドトーン、より深いシャドウを確保しながら、肌色をより忠実に捉えます。逆光や明暗差が大きいシーンなどで、より美しい写真を撮影できるよう。

## ●シャッターラグを減らしてポートレートを撮影



従来のようにポートレートモードに切り替えることなく、ポートレート撮影を行えるようになりました。これは、人物や犬、猫といった被写体を自動認識し、深度情報を取り込むことで実現しています。シャッターを切るラグが減ることで、撮影チャンスを逃しにくいのがメリットです。

さらに、写真撮影/編集時のコントロール機能の数々も向上しました。中でも特筆したいのがポートレート撮影機能の進化で、カメラが人物/犬/猫を認識(もしくはカメラ画面で対象をタップ)すると自動で深度情報が取り込まれるようになりました。これにより、ポートレートモードに切り替えずとも深度を保った撮影ができるようになったほか、撮影後にピントを合わせる被写体を切り替える、背景のボケ感を調整するなどの操作にも対応しました。

また iPhone 15 シリーズでは、画像合成機能「スマートHDR」がバージョン5にアップデート。被写体のスキントーンがより実物に近い表現されるほか、明暗差が大きいような撮影シーンでも写真の色味をバランスよく仕上げてくれます。

カメラがない iPhone 15 シリーズで望遠撮影を可能にしたこともポイントです。従来モデルでのズーム撮影は、12MP カメラで捉えたシーンの一部を切り取って拡大するデジタルズームのため画質が劣化していました。しかし 48MP のメインカメラを利用すると、画像の中央部を切り取って 12MP の写真にするため、これまでのような劣化を感じにくいのが特徴です。



iPhone 15  
15 Plus  
新機能ガイド

INTERFACE

文・栗原亮(Akiba)

ついに待望のUSB-Cコネクタを採用!  
ほかのデバイスとケーブルを共用できる

●約30分で  
最大50%の高速充電



別売りのApple純正「20W USB-C電源アダプタ」(価 2780円)を利用すれば、iPhone 15シリーズのバッテリーを約30分で最大50%充電できます。もちろん、MacやiPad付属のUSB-C電源アダプタやUSB PD (Power Delivery)対応の他社製品も利用可能です。

●MacやiPadと同じUSB-Cを搭載



iPhone 15シリーズにUSB-Cコネクタが採用されました。USB-Cを備えたAppleデバイス同士でケーブルを共用できるほか、デバイス間での充電が行えます。なお、付属するケーブルのデータ転送仕様はUSB 2 (最大480Mbps)です。28ページでは、転送速度の詳しい検証を行っています。

●AirPods Pro (第2世代)とApple Watchを充電



コネクタがUSB-CにリニューアルされたAirPods Pro (第2世代)の充電ケースや「Apple Watch磁気高速充電 - USB-Cケーブル(1 m)」(価 4780円)をiPhoneに接続することで、iPhoneから各デバイスに充電できるようになりました。

●次世代のワイヤレス充電規格Qi2に対応



ワイヤレス充電については、従来のMagSafe (最大15W)に加えて、新たに2023年1月に策定された次世代規格「Qi2」に対応しました。すでにBelkinやAnkerがQi2対応製品を追加することを発表しています。

<https://www.belkin.com/pr-belkin-unveils-new-products-at-ifa-2023.html>

●有線イヤホンも  
リニューアル

Apple純正の有線イヤホン「EarPods」も、インターフェイスがUSB-Cにリニューアル。別売りのアクセサリとして利用できます(価 2780円)。



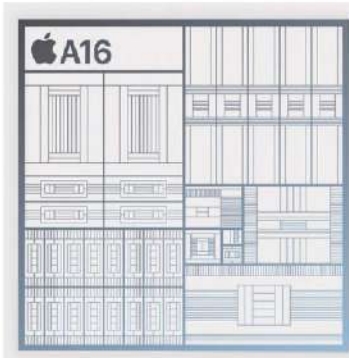
11年ぶりのリニューアル

iPhone 15シリーズでもっとも注目されたトピックのひとつは、インターフェイスがアップル独自規格「ライトニング(Lightning)」から汎用的なUSB-Cに変更されたことでしょう。2012年にライトニングが登場してから11年ぶりの仕様変更ですが、すでにMacやiPadなど、近年発売されたアップルデバイスはUSB-Cへの移行がほとんど完了しています。そのため多くのアップルユーザは、複数の充電ケーブルを持ち歩かなくて済む利便性をメリットに感じられるでしょう。またiPhoneを使って、エアポッズ(AirPods)やアップルウォッチ(Apple Watch)に充電できるようになったことも注目のポイントに挙げられます。

なお、これまでiPhoneとサードパーティ製アクセサリを接続する際の互換性は、アップルが策定した「MFi認証」によって担保されてきました。しかしUSB-Cへの移行により、このような品質保証はなくなり、安価なサードパーティ製品を選択肢が増える半面、製品の良し悪しをユーザが判断する必要があることは覚えておきましょう。



## ● 高効率なA16 Bionicを採用



iPhone 15 / 15 Plusに搭載されているSoC (システムオンチップ)は、iPhone 14 Proシリーズと共通する「A16 Bionic」チップです。5コアGPUのほか、6コア(2つの高性能コアと4つの高効率コア) CPU、16コアのNeural Engineをひとつのチップに統合しています。

## ● ゲームのグラフィックスが滑らかに



A15 Bionicに比べ、A16 Bionicではメモリ帯域幅が50%増加。5コアのGPUで、動画やゲームのグラフィックスをよりスムーズに表示できます。また処理性能の向上に加えて、A15 Bionicより消費電力を20%抑えたことで、バッテリー駆動時間の延長にも貢献しています。

## ● 近年のiPhoneに搭載されるチップの比較

モデル	iPhone 14	iPhone 14 Pro	iPhone 15	iPhone 15 Pro
チップ	A15 Bionic		A16 Bionic	A17 Pro
製造プロセス	TSMC N5P		TSMC N4	TSMC N3B
トランジスタ数	150億		160億	190億
高性能コア(世代)	2 (Avalanche)		2 (Everest)	2
高効率コア(世代)	4 (Blizzard)		4 (Sawtooth)	4
GPUコア	5		5	6
Neural Engine (演算性能)	16 (15.8TOPS)		16 (17TOPS)	16 (35TOPS)
メモリ容量(SDRAM)	6GB (LPDDR4X)		6GB (LPDDR5)	8GB (LPDDR5)

前モデルのiPhone 14シリーズと、最新のiPhone 15シリーズが搭載するチップの性能を比較しました。iPhone 15シリーズはiPhone 14 Proと同じチップを備えるほか、iPhone 15 Proシリーズの処理性能が大幅に強化されていることがわかります。

近年のiPhoneは、プロモデルに採用されていた技術が翌年のスタンダードモデルに投入されるパターンが続いています。iPhone 15 / 15 Plusにおいても、iPhone 14 Proシリーズに採用された「A16 バイオニック」がSoC(システムオンチップ)として搭載されました。iPhone 14 Proと15 / 15 Plusでは、カメラなど一部の仕様には違いはあるものの、前世代のハイエンドモデルと同等のパフォーマンスが発揮できるため、そのコストパフォーマンスが際立ちます。

A16 バイオニックは、iOS やアプリの機能を実行するためのCPU、グラフィックス処理を担うGPU、カメラで捉えた写真や映像を処理するISP、毎秒17兆近くの機械学習演算を行うニューラルエンジン(Neural Engine)、そしてこれらの処理を同時に行えるメモリなどが統合されたチップです。いずれも、デジタル処理によって写真の表現力を拡張するコンピュータショナルフォトグラフィ、ゲームのグラフィックス性能の向上、iOS 17で進化した機械学習機能の実現に欠かせないものとなっています。



## CHIP

文● 櫻原亮(ARKN0)

# グラフィックス性能と省電力に妥協なし! A16 バイオニックで使い勝手が大きく向上!

プロゆずりの高い性能



iPhone 15  
15 Plus  
新機能ガイド

DISPLAY

文・栗原亮(Akiba)

「ダイナミックアイランド」を標準搭載！  
プロ級の体験をスタンダードモデルでも

● iPhone 14 Proシリーズと同等の明るさに

iPhone 15シリーズは、Super Retina XDRディスプレイを搭載します。通常時の最大輝度は1000ニト、HDRのピーク輝度は1600ニト、屋外での利用時は最大2000ニトで、iPhone 14 Proシリーズと同等の明るさです。

● 15シリーズ全モデルにDynamic Islandを採用



iPhone 15シリーズで展開されるすべてのモデルにDynamic Islandが採用されました。重要な通知の確認やアクティビティの操作などが画面上部で行えます。

iPhone 12シリーズ以降では、コーニング社との協力で開発されたCeramic Shieldを前面ガラスに採用しています。ガラスにナノセラミッククリスタルを組み込むことで高い強度を実現しており、衝撃や傷に強いだけでなく、熱や電気への耐性を備えます。また耐指紋性撥油コーティングも施されているため、指紋が付きにくいのもポイントです。



● 前面ガラスはCeramic Shieldで保護



● 常時表示ではない点に注意

iOS 17で採用された「スタンバイモード」では、iPhoneを横置きで充電する際のロック画面を、時計、写真ビュー、カレンダービュー、ウィジェットなどに切り替えて表示できます。ただしiPhone 15 / 15 Plusでは、iPhone 14 Pro / 15 Proシリーズのように常時表示ディスプレイは利用できないことは覚えておきましょう。

さらに明るくプロ並みに

iPhone 15 / 15 Plusに搭載された「スーパーレティナ (Super Retina) XDRディスプレイ」は、iPhone 14 / 14 Plusと比べて明るさが大幅にアップしました。通常時の最大輝度は800ニトから1000ニトに、HDRのピーク輝度は1200ニトから1600ニトになり、iPhone 14 Proシリーズと同等の明るさとなっています。さらに屋外での利用時は最大2000ニトの明るさに対応したことで、さまざまな状況での視認性が向上しています。また、iPhone 15シリーズの全モデルにダイナミックアイランドが採用されました。前面カメラのセンサーハウジング部分に、電話の着信や再生している楽曲、マップの経路案内などがアニメーション効果とともに表示され、これらをタップすることで詳細な情報の確認や操作を実行できます。

なお、iPhone 15 / 15 Plusは、14 Proおよび15 Proシリーズに搭載される一分機能には非対応。最大120ヘルツの可変リフレッシュレート機能「プロモーション (ProMotion)」や、ディスプレイの常時表示機能は搭載されていません。



## CHECK

iPhone 15シリーズ全モデルで標準搭載!  
「Dynamic Island」の機能をおさらい

iPhone 14 Pro / 14 Pro Maxではじめて搭載されたDynamic Islandが、iPhone 15シリーズ全モデルで標準搭載となりました。Dynamic Islandは、iPhoneのディスプレイ上部にまるで“島(Island)”のように設けられたインターフェイスで、サイズや形状を変えながらアクティビティの状況を表示してくれます。ここではDynamic Islandが具体的にどのように動作するのか、そしてどんなシーンで活躍するのかを改めておさらいします。

## 通常時のパンチホール



文●上門達希

## 電話の着信通知 / 電話中の表示



着信時に相手の名前と応答 / 終話ボタンが表示されるほか、応答後には音声出力先変更ボタンと終話ボタンが表示されます。「LINE」でも同様に挙動します。

## AirDropの受信



AirDropでコンテンツを受信すると、受信の進捗を示すサークルが表れます。これを長押しすることで、詳細なファイル名と受信停止ボタンが表示されます。

## AirPodsの接続



AirPodsシリーズをiPhoneに接続すると、アニメーションとバッテリー残量が表示されます。長押しすることで、AirPodsの名称も確認可能です。

## 消音モードのオン / オフ



iPhoneのサイレントスイッチ(またはアクションボタン)での消音モード切り替え時に、どちらに切り替えたか表示されます。

## 充電の開始



iPhoneの充電を開始すると、「充電中」のテキストとともに現在のバッテリー残量が表示されます。

## Face ID



アプリのダウンロード時など、Face IDで顔認証を行う際はDynamic Islandが正方形に変わります。アニメーションで認証状況を確認可能です。

## Apple Payの利用



Apple Payで交通系ICカードなどを利用したときにDynamic Islandの表示が大きくなり、利用したカードのイラストや残高が表示されます。

## 地図の経路案内



「マップ」でルート案内を設定したあと、バックグラウンドで挙動させたときに利用可能。Dynamic Islandを長押しすると、経路を詳しく表示してくれます。

## 2つのアプリの同時起動



バックグラウンドのアクティビティが複数ある場合、Dynamic Islandが左右に分離して表示されます。写真は「ミュージック」と「タイマー」を利用したところ。

## タイマーのセット



「時計」アプリでタイマーをセットすると、カウントダウンが始まります。これを長押しすることで、一時停止ボタンや終了ボタンが表示されます。

## 音楽再生中と長押し後の動作



「ミュージック」で楽曲を再生すると、Dynamic Islandにアートワークと波形が表示されます。これを長押しすると、楽曲タイトルおよびアーティスト名、再生操作ボタン、シークバーなどが表れます。

チタニウムをまとってProシリーズ最軽量化を実現  
究極の性能が詰まったプレミアムモデルが新登場!

# iPhone 15 Pro 15 Pro Max 新機能ガイド

文・小平淳一

特定の機能を素早く起動できる  
アクションボタンを初搭載!

A17 Proを搭載し  
グラフィックス性能が向上



iPhone初採用の  
チタニウムボディ

Pro Maxの望遠カメラは  
5倍光学ズームに対応!

## チタニウムの上質な鏡

iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxは、まずデザインが特徴的です。iPhoneではじめてチタニウム合金素材を採用したことで、頑丈さと軽さを両立するほか、かつてない上質さも感じられる仕上がりです。また、「A17 Pro (Pro)」チップを新たに搭載したこともポイント。iPhone 14 Proシリーズに搭載されるA16バイオニックに比べ、CPUは最大10%、GPUは最大20%、ニューラルエンジンは最大2倍の性能向上を謳っています。ゲームやクリエイティブ分野のアプリなどの利用時に新次元の体験が得られるでしょう。

また、従来の着信/消音スイッチを「アクションボタン」に置き換えた点も大きなトピック。これにカメラやボイスメモの起動など、ユーザが指定した操作を割り当てることで素早く起動できます。

さらに、USB 3に対応するUSB-Cコネクタを採用した点や、iPhone 15 Pro・Maxで5倍光学ズームを実現したこともポイントです。iPhoneを創造的に使いこなしたいユーザの期待に応える、格別の性能が詰まっています。





3種のカメラを搭載するのは従来のProシリーズと同様で、画素数もiPhone 14 Proシリーズと同じです。一方、iPhone 15 Pro Maxは望遠カメラが従来の3倍光学ズームから5倍に進化しています。



●高級感あふれる4種のカラー



ブラックチタニウム、ホワイトチタニウム、ブルーチタニウム、ナチュラルチタニウムといった4種類のカラーバリエーションを採用。いずれも落ち着いた上品な色合いです。

管体内部の基本構造体には、再生アルミニウムを100%採用。放熱効率が向上したほか、「固体拡散接合」という技術を採用することで外面のチタニウムと強固に接合しています。なお、iPhone 15 Pro / 15 Pro・マックスともにカラーバリエーションを展開しています。強固な成膜方式のPVDコーティングによるブラシ仕上げを採用しており、高級感を感じる落ち着いたトーンのカラーリングを損なわずに耐久性も向上させているのが特徴といえるでしょう。



ディスプレイサイズはiPhone 14 Proシリーズと同様で、iPhone 15 Proは6.1インチ、iPhone 15 Pro Maxが6.7インチです。前面ガラスには、衝撃や傷から保護するCeramic Shieldを採用します。



従来の着信/消音スイッチに代わって、新たにアクションボタンが搭載されました。標準では、長押しすることで着信モード/サイレントモードを切り替えられます。そのほか、カメラやボイスメモ、フラッシュライトの起動などの機能を任意で設定することが可能です。

●精密加工が施されたチタニウムボディ



ボディを覆うチタニウムには、きめ細やかなブラシ加工とプラスト加工が施され、独特の存在感と高級感を醸し出しています。

また、サイドのエッジは緩やかにカーブを描き、しっかりと手に馴染むのもポイント。ケースで覆うのがもったいないと感じるユーザーも多いのではないのでしょうか。



DESIGN  
 文・小平淳一

堅牢さと軽さ、そして美しさを兼ね備えた  
 航空宇宙産業レベルのチタニウムボディ

高度な技術が支える美しさ



iPhone 15 Pro / 15 Pro Max  
新機能ガイド

CAMERA

文・小平淳一

# レンズ7本分の機能がこれ1台に！ プロ・マックスでは5倍ズームの超望遠も

## ● 暗い場所でも一段とくっきり



画像処理エンジン「Photonic Engine」の進化により、ナイトモードとポートレートの画質が向上しました。ダイナミックレンジが広がり、暗い場所でも被写体をよりハッキリと写し出せるでしょう。

## ● メインカメラのセンサが大型化して48MPに

### 超広角カメラ

フルサイズ換算で13mmの焦点距離で、絞り値はf/2.2。撮像素子は12MP（1200万画素）です。マクロ撮影にも対応しています。



### メインカメラ

48MPの撮像素子を搭載したメインカメラ。フルサイズ換算24mmの焦点距離で、絞り値はf/1.78。はじめて28mmと35mmの撮影モードが追加されました。

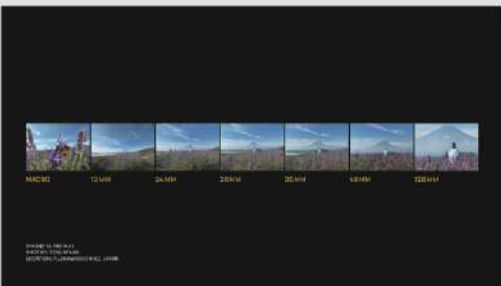
### 望遠カメラ

iPhone 15 Proはフルサイズ換算77mm、iPhone 15 Pro Maxは120mmと仕様異なります。絞り値は両者ともにf/2.8で、12MPで撮影が可能です。

## ● 28mm、35mmモードが追加



## ● 7種類のレンズに相当



iPhone 15 Proシリーズで利用できるカメラは、マクロモード、13mm、24mm、28mm、35mm、48mm、望遠(iPhone 15 Proは77mm、iPhone 15 Pro Maxは120mm)の7種類です。Appleは「7種類のレンズをポケットに入れて、どこにでも持ち運べる」とアピールしています。

フルサイズ換算24mmのメインカメラには、新たに28mm / 35mmで撮影できるモードが追加されました。これらは「カメラ」アプリ上で簡単に切り替えられるほか、1つをデフォルトとして設定しておくことも可能です。

## マックスだけの5倍ズーム

iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxのカメラに、メイン / 望遠 / 超広角の3つを搭載しているのは従来と同様ですが、各カメラには多数のアップデートが行われています。

メインカメラは48MP、フルサイズ換算24ミリ、f/1.78と、前モデルと同等のスペックですが、ソフトウェアが進化したことで28ミリと35ミリの撮影モードが追加されました。使い勝手の良い3種の焦点距離を切り替えられるほか、1つをデフォルトとして設定することも可能です。さらに、48MPのヒーフ形式で保存できるようになったこともトピック。解像度と扱いやすいデータサイズを両立できるようになりました。

望遠カメラは、iPhone 15 Proと15 Pro Maxで性能が異なります。15 Proに関しては、14プロ / 14プロ・マックスと同様の12MP、フルサイズ換算77ミリ、f/2.8、光学3倍ズームというスペックです。特筆すべきは、15 Pro・マックスがはじめて12MP、35ミリ換算120ミリ、f/2.8、光学5倍というカメラを搭載したこと。光をレンズの中で4回屈折させる「テトラプリズム」構造を採用



●ポートレートモードも進化



Photonic Engineの進化により、ポートレートモードの画質も進化。また、ポートレート写真の撮影後にピント位置を変更できるようになりました。

●スマートHDRは第5世代に進化



高品質なHDR画像を生成するための「スマートHDR」が、スマートHDR 5へと進化。被写体と背景の階調・色調を最適化し、豊かな階調表現を実現します。

●Pro Maxは120mm望遠を搭載



iPhone 15 Pro Maxは、フルサイズ換算120mm相当のレンズをはじめて搭載しました。野生動物の撮影、スポーツ、ポートレートなど、さまざまなシーンで活用できるでしょう。

●光を4回屈折させるテトラプリズム



通常、望遠レンズはセンサと距離をとる必要があるため、奥行きが長くなりがちです。しかしiPhone 15 Pro Maxでは、レンズ内で光を4回屈折させるテトラプリズム構造を採用し、この課題をクリア。なお、望遠カメラには3方向に動く「オートフォーカス3Dセンサーシフトモジュール」も採用され、手ぶれを強力に抑えます。

●空間ビデオの撮影に対応



iPhone 15 Proシリーズの超広角カメラとメインカメラの2つを使うことで、Apple Vision Proで再生できる「空間ビデオ」の撮影に対応。年内に対応する予定です。

さらに、動画撮影に関してもトピックがあります。1つ目は、RAWデータの容量を圧縮した「ログ (log)」「エンコーディング」と、広色域のカラースペース「ACES」に対応した点です。2つ目は、iPhoneと外付けストレージを別売りのケーブルで有線接続することで、外付けストレージに直接画像や動画を保存できる点。さらには、年内中に「アップル・ビジョン・プロ (Apple Vision Pro)」で利用できる「空間ビデオ」の撮影に対応することが発表されたのもポイントです。

用したことで、レンズの奥行きを抑えることにも成功しています。また、120ミリのカメラを使うことで、スポーツシーンや動物のポートレートを切り取ったりと、より離れた距離の被写体の撮影に活かれます。なお、超広角カメラも12MP、フルサイズ換算13ミリ、 $f/2.2$ と、前モデルと同じ仕様です。アップデートはありませんが、被写体に接近したマクロ撮影ができるのはプロモデルならではの魅力でしょう。

3種類のカメラで共通するのは、新たに「ナノスケールコーティング」が施されたこと。これにより、逆光時のレンズフレアがより低減できます。



“レタッチなし”の作例で、最新iPhoneの真の実力を紐解こう!

# iPhone 15シリーズのカメラをプロのカメラマンが徹底検証!

ここまで、iPhone 15シリーズでカメラがどのように進化したかを詳しく解説してきました。ここで、純正「カメラ」アプリで撮影した写真を比較し、その性能を確認してみましょう。なお、写真撮影とレビューをしてくれるのは、プロカメラマンの鹿野貴司さん。鹿野さんが愛用しているiPhone 13 Proと見比べながら、その性能を紐解きます。

私が検証しました!



鹿野貴司

多摩美術大学映像コース卒業後、カメラマンとして広告や雑誌の撮影を手掛ける。近著は『いい写真を撮る100の方法』(玄光社)、3rd写真集『山梨県早川町 日本一小さな町の写真館』(平凡社)。

Case

1

## 人物ポートレート

小雨の日(16時頃)にポートレートモードで撮影。撮影後に編集はしておらず、フォトグラフスタイル(色味のデフォルト設定)も適用していません。

iPhone 15 Pro(2倍)



2倍(48mm)は遠近感が肉眼に近く、目の前の光景を気持ちよく切り取れるのが特徴です。iPhone 13 Proに比べて人物と背景の境界がより自然かつ、今回比較した3モデルの中でもっとも木々やベンチの色味が見たままです。ただし、人物の肌は実際よりも黄色味を帯びています。

iPhone 15 Plus(2倍)



iPhone 15 Proと比べて、撮影時のレスポンスや自然なボケ味は同等でしたが、ほんの少し立体感に欠けています(気にならない人も多そうですが...)。また、これもiPhone 15 Proと共通ですが、あとからかなり強めにボケ感を調整しても、f/2.0前後まで髪の毛のエッジが損なわれにくいことに驚きました。

iPhone 13 Pro(3倍)



ポートレートモードで利用できるのは1倍(24mm)と3倍(77mm)です(iPhone 15 Proは1/2/3倍、iPhone 15 Plusは1/2倍)。きれいなボケ感はずりませんが、人物(特に髪の毛周り)と背景の境界にやや粗さが見えます。また、iPhone 15シリーズを触ったあとでは撮影時のレスポンスがひとひたつに感じます。

Case

2

## メインカメラ

「人物ポートレート」と同じく、小雨の日(16時頃)に写真モードの1倍で撮影。編集およびフォトグラフスタイルは適用していません。

iPhone 15 Pro



比較した3機種の中で、もっともクリアでメリハリのある描写。自然光がほとんどない状況でしたが、それを感じさせません。カメラマンからすると、周辺部の解像力や後ボケ(被写体の後ろのボケ)の美しさはあと一歩に感じますが、悪条件の撮影としては上出来でしょう。

iPhone 15 Plus



画質はiPhone 15 Proと遜色ありません。ただ、花の色味とコントラスト感はiPhone 15 Proのほうが迫力を感じるほか、後ボケ部分がかなり滲んでいます。ただ、そのおかげでふんわりと柔らかい印象を作り出しています(この仕上がりが好きな人もいそうですね)。

iPhone 13 Pro



背景の二線ボケ(本来は1本の線が2本に見えること。ボケ感としては美しくないとされます)が目立つほか、暗部の締まりが弱いように思います。ただ、2世代前のモデルということを考えれば十分納得のいく描写で、輪郭が過度に強調されていない点も好感触です。



Case

3

## ナイトモード

曇りの日(19時頃)に、ナイトモード写真を撮影。三脚は使わずに手持ち(シャッター時間1秒)で撮影しています。

iPhone 15 Pro(2倍)



拡大しても遠くのビルがくっきり写っており、ディテールも残っています。空を見てもノイズがほとんど見えず、暗調も滑らかです。ちなみに、撮影後に「写真」アプリで撮影設定を確認すると、シャッター時間は1秒、シャッター速度は1/14秒、感度はISO1600。スマートフォンで撮れる感度としては高めです。

iPhone 15 Plus(2倍)



iPhone 15 Proより低い感度で撮影していましたが、空を見るとノイズや階調に少し崩れがあります。両者で差が出るのは暗いシーンのようなですね。ビルや橋の解像感が高く、十分満足のいく描写です。なお、シャッター時間はiPhone 15 Proと同じ1秒ですが、シャッター速度は1/9秒、感度はISO1000でした。

iPhone 13 Pro(3倍)



ほかの2モデルと比べると、ビルや橋の解像感が甘く、輪郭周辺のディテールもやや崩れています。空のノイズもかなり目立つので、iPhone 15シリーズの優秀さを改めて実感させられますね。やはり、モデルによる差は夜間や暗い部屋などの条件が悪いシーンでこそ顕著になりそうです。

Case

4

## Proモデルの望遠カメラ

やや曇りの日(11時頃)に、iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxの望遠カメラを使って、すべて同じ位置から撮影しています。

iPhone 15 Pro (3倍)



iPhone 15 Pro Max (5倍)



iPhone 15 Proは3倍(77mm)、iPhone 15 Pro Maxは5倍(120mm)と、望遠カメラで撮影しています。どちらもいわゆる「中望遠」と呼ばれる画角で、風景を撮ると独特の圧縮効果(遠いものと近いものの遠近感が圧縮されたように写ること)を得られます。また、iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxともに目で見た色に近い色合いで撮影することができました。

iPhone 15 Pro (15倍)



iPhone 15 Pro Max (25倍)



iPhone 15 Proのメインカメラ(1倍)を使った写真。これと同じ位置で撮影しています。

iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxの両者で大きく異なるのが望遠カメラ。最大までズームするとiPhone 15 Proが15倍(405mm)、iPhone 15 Pro Maxが25倍(687mm)です。ただし、ここまでくるとディテールの崩れが気になるほか、特にiPhone 15 Pro Maxではノイズも目立ちます。しかし、両モデルとも強力な手ブレ補正のおかげでフレーミングが安定しましたし、解像力もそこそこ感じられるのは驚きました。



REVIEW

## プロのカメラマンが検証した感想は?

そもそも、iPhoneはかねてより肉眼に近い描写です。かといって描写が甘いわけではなく、むしろ細部まで解像する技術があるからこそ、Androidモデルでよくある輪郭を強調した描写が必要ないのだと思います。iPhone Xから12くらいまでのカメラは明暗差を埋めすぎて、メリハリに欠けたり違和感があるケースも多めでしたが、今回使ったiPhone 15シリーズはかなり自然でした。明るいところは明るく、暗いところは不自然に持ち上げすぎない色出して、こんなにクリアに撮れるんだと驚きました。

また、最近は音楽系のライブ中に撮影できるケースが増えてきましたし、コロナ禍を経てスポーツイベントにも参加しやすくなりました。こうした場面を撮りたい人にはiPhone 15 Pro Maxの5倍ズームが大きな武器になると思います。2倍(48mm)や5倍(120mm)に加えて無段階でズームできるため、かなり多くのシーンで撮影できそうですね。また、iPhone 15 / 15 Plusでも、上位機種と同じ48MPのメインカメラを使えば、今までより遠くのもの美しく撮影できるはずですよ。



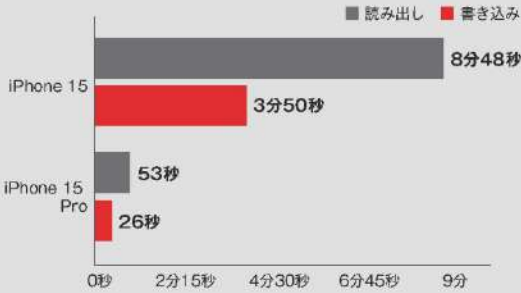
iPhone 15 Pro / 15 Pro Max  
新機能ガイド

INTERFACE

文・栗原亮(akiharu)

プロ仕様のUSB-Cコネクタを搭載！  
10Gbpsの高速転送をフル活用しよう

●データ転送速度を比較



USB 3.2 Gen 2の外付けSSDを接続し、10GBのファイルをSSDに書き込む速度を比較。USB 2対応のiPhone 15は約45MB/秒、USB 3(=USB 3.2 Gen 2)のiPhone 15 Proは約394MB/秒と、約8.8倍高速でした。

●アクセサリの充電も可能



iPhone 15シリーズはUSB PDに対応し、USB-CコネクタにアップグレードされたAirPods Pro (第2世代)やApple Watchに最大4.5Wで給電できます。

●周辺機器を上手に選ぼう



USB-Cコネクタを備えたUSBメモリや、USB-C 3.2接続に対応した外付けSSDなどが利用可能。Thunderbolt 3以降のケーブルにも対応していますが、iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxの給電能力の上限である4.5Wを超える周辺機器の場合は正しく認識しませんでした。

●外付けストレージで容量を拡張



USB-C接続の外付けSSDをiPhone 15シリーズに接続すると、「ファイル」アプリの[場所]に表示されました。[このiPhone内]に保存されているファイルを外付けSSDに移動することで、iPhoneの内蔵ストレージの空き容量を確保できます。

●外付けストレージに直接録画



「設定」→「カメラ」→「フォーマット」→「Apple ProRes」をオンにすることで、プロ仕様のビデオを収録可能。[ProRes エンコーディング]からフォーマットを選択でき、[4K / 60p]の10ビットHDR ProResを選んだ場合、撮影されたデータは外付けSSDに記録されます。

また、ProRes形式の動画はファイル容量が大きいため(1分間の4K / 30pで約6GB)、動画を直接外付けストレージに記録できるようになったこともメリットです。4K動画は基本的にカメラロールに保存されますが、60pのプロレスでの撮影時のみ外付けストレージに保存されます。

また、iPhoneで撮影した写真や動画を有線接続したMac上で確認できる「テザラ撮影」に対応するほか、最大4K / 60Hzの外部ディスプレイも利用可能です。ただし、iPhone 15 Proシリーズの同梱ケーブルはUSB 2.0のため、USB 3.2 Gen 2対応ケーブルを別途用意する必要があります。

この仕様の差は、外付けSSDを接続して大容量のファイルをコピーする際に現れます。ただし、iPhoneで扱えるのは4.5W以下で動作する周辺機器に限定されるため、正しく認識しない外付けSSDもありました。

また、ProRes形式の動画はファイル容量が大きいため(1分間の4K / 30pで約6GB)、動画を直接外付けストレージに記録できるようになったこともメリットです。4K動画は基本的にカメラロールに保存されますが、60pのプロレスでの撮影時のみ外付けストレージに保存されます。

プロの動画撮影に最適

iPhone 15 / 15 プラスの転送速度は最大480MbpsのUSB 2.0ですが、iPhone 15 Pro / 15 Pro マックスは最大10GbpsのUSB 3.2 Gen 2です(アップルはこの規格を旧称の「USB 3」と呼んでいます)。



●「設定」アプリからカスタマイズ



アクションボタンに割り当てる機能は「設定」アプリ→「アクションボタン」から変更可能。機能を設定せず利用することもできます。

●長押しでアクションを起動



iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxには、アクションボタンがはじめて搭載されました。これにさまざまなアクションを割り当てて、長押しで素早く起動できます。



BUTTON

文●栗原光(ARKN0)

新機構「アクションボタン」の搭載で  
多彩な機能を瞬時に呼び出し！

●9つのアクションを呼び出せる



割り当てできるアクションは、「消音モード」「集中モード」「フラッシュライト」「拡大鏡」「アクセシビリティ」といった機能に加えて、「カメラ」「ボイスメモ」「翻訳」アプリの起動が可能(「翻訳」は年内対応予定)。さらに、「ショートカット」で任意のタスクを呼び出すこともできます。

●アクションボタンの機能を変更する方法



3 設定後、アクションボタンを長押しすると機能が実行されます。写真は集中モードを選んだ画面で、視覚的に機能のオン/オフを確認できるのが特徴です。



2 続く画面で機能を切り替えることが可能です。集中モードを選ぶ場合、「おやすみモード」「運転モード」など任意のものを選んで割り当てることができます。



1 アクションボタンの機能を変更するには、まず「設定」アプリ→「アクションボタン」を選びましょう。

なお、アクションボタンを押して機能呼び出すと、即座にアプリが開かれるほか、「集中モード」など一部の機能ではダイナミックアイランドで視覚的なフィードバックを確認できます。日常的によく利用する操作を素早く、かつ直感的に実行できるのがメリットです。

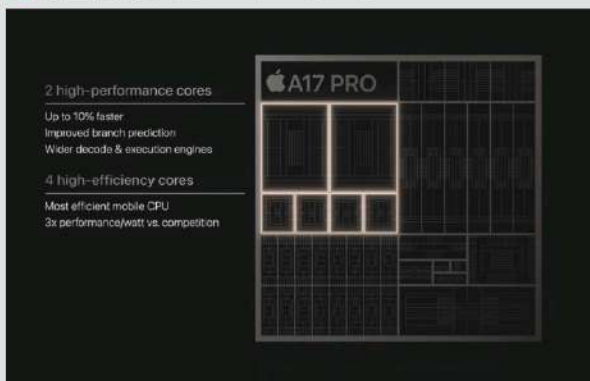
アクションボタンに割り当てることができる機能は9個用意されており、ロック画面からもアクセスできる「カメラの起動」や「フラッシュライトの点灯」や「拡大鏡」に加え、「集中モード」のような設定を即座に適用できます。さらに、「ボイスメモ」や「翻訳」など素早く起動したいアプリを呼び出すことにも使えるほか、「ショートカット」に登録したアクションを割り当てることも可能です。

アクションボタンに割り当てられる機能は9個用意されており、ロック画面からもアクセスできる「カメラの起動」や「フラッシュライトの点灯」や「拡大鏡」に加え、「集中モード」のような設定を即座に適用できます。さらに、「ボイスメモ」や「翻訳」など素早く起動したいアプリを呼び出すことにも使えるほか、「ショートカット」に登録したアクションを割り当てることも可能です。

従来のiPhone本体左側面には、スライド式の消音スイッチが用意されていました。これがiPhone 15 Pro / Pro Maxには用意されておらず、新たに「アクションボタン」が搭載されています。これを長押しすることで、従来の「着信/消音切り替え」をはじめ、指定したアクションを呼び出せる機能が追加されました。

よく使う操作を効率化

## ●史上最強のモバイルCPU



A17 Proの高性能CPUコアは、分岐予測の改善と命令デコーダおよび実行エンジンを増強し、従来より10%高速化されています。また、高効率CPUコアはエネルギー効率が改善されました。

## ●4K60 ProRes録画



iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxは最大10GbpsのUSB 3に対応し、Apple ProResフォーマットで撮影した4Kビデオを最大60pで撮影できるようになりました。



## ●最大10GbpsのUSB 3に対応

A17 Proには、最大10GbpsのUSB 3コントローラが搭載されているのがポイント。なお、A16 Bionicチップを搭載するiPhone 15 / 15 PlusはUSB 2 (最大480Mbps)に制限されています。

## ●GPUが大幅に進化

A17 ProのGPUコアはシェーダーアーキテクチャが大きく見直されたほか、メッシュシェーディングに対応しました。また性能も最大20%高速化されており、Appleはこれを「Pro-class GPU」と呼んでいます。

さらに、機械学習を担うニューラルエンジンも大幅に強化されたGPU。そして、A17プロにおける最大の進化はGPUコアです。コア数が従来の5基から6基に増強されただけでなく、シェーダーアーキテクチャが見直されたことで新世代のGPUへと生まれ変わりました。さらに、メッシュシェーディングへの対応およびレイトレーシングアクセラレータの搭載によって、ゲームアプリの3D描画におけるリアリティや画質、応答速度が大幅に向上し、ゲーミングPCCクラスの体験をもたらしています。さらには、機械学習を担う

## ●Apple A17 Pro



iPhone 15 Proシリーズの心臓部には、TSMCのEUV (極端紫外線)露光3nmプロセスで製造されたA17 Proが採用されました。トランジスタ数は190億個と、M1チップの160億個を大きく上回っています。



iPhone 15 Pro / 15 Pro Max  
新機能ガイド

BUTTON

文・今井隆

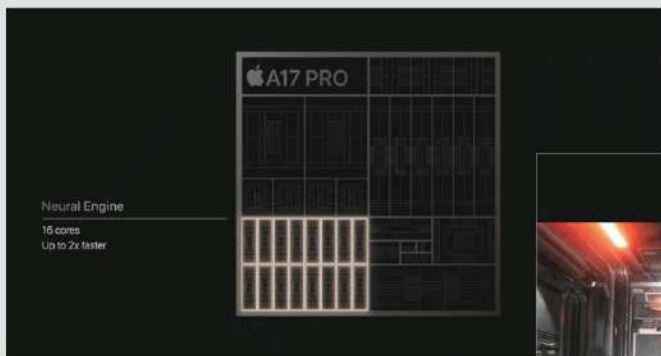
GPUとエネルギー効率が大大幅に強化！  
最高水準の「A17プロ」チップを搭載

大幅強化されたGPU

iPhone 15プロ/15プロマックスに搭載される「A17プロ」チップは、最先端の3nmプロセスで製造されています。まず、A17プロのCPUは高性能コア2基+高効率コア4基と、A16バイオニックと同じ構成です。しかし、高性能コアは業界最高レベルの性能で、高効率コアはライバルと比べて3倍のエネルギー効率。メモリは過去最大の8GBのLPDDR5メモリが搭載されました。これにより、iPhone 15/15プロマックスはデスクトップPCレベルの性能を、手のひらサイズで実現しています。

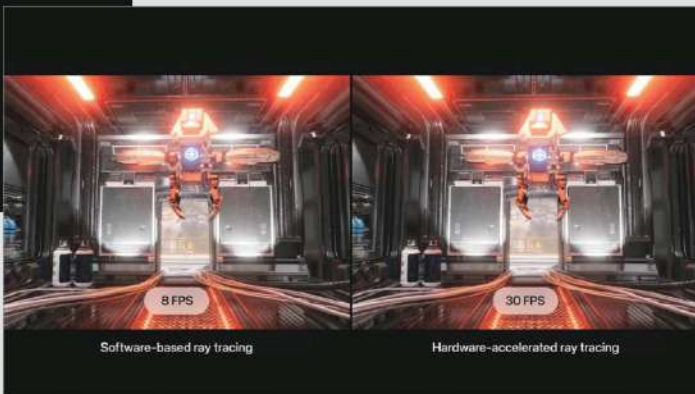
そして、A17プロにおける最大の進化はGPUコアです。コア数が従来の5基から6基に増強されただけでなく、シェーダーアーキテクチャが見直されたことで新世代のGPUへと生まれ変わりました。さらに、メッシュシェーディングへの対応およびレイトレーシングアクセラレータの搭載によって、ゲームアプリの3D描画におけるリアリティや画質、応答速度が大幅に向上し、ゲーミングPCCクラスの体験をもたらしています。さらには、機械学習を担う





## ● Neural Engine

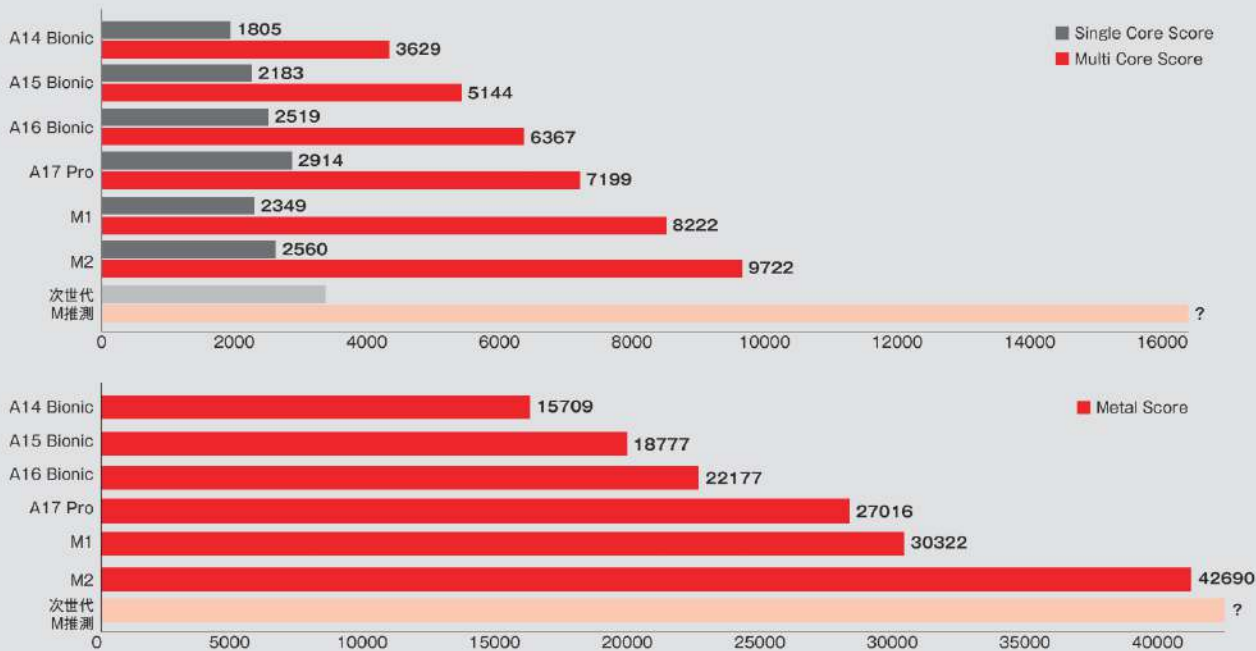
A17 Proに搭載されるNeural Engineは従来と同じ16基ながら、アーキテクチャが更新されたことで最大2倍高速化されました。「Pro-Class GPU」と組み合わせることで、ゲームシーンなどを高画質化することに貢献します。



## ● ハードウェアレイトレーシング

A17 Proは、Appleシリコンではじめてレイトレーシングアクセラレータを搭載し、従来比4倍のフレームレートを実現しました。これによって、よりリアリティのあるゲームタイトルを高画質かつスムーズに楽しめます。

## ● A17 Proのベンチマーク



A17 ProのGeekbench 6ベンチマーク結果。Appleの発表どおり、A16 Bionicに比べてCPU性能(グラフ上)が約10%、GPU性能(グラフ下)が約20%向上していることが確認できました。M2シリーズはA15 Bionicをベースにしているため、その後継となるA17 Proベースの次世代Mac向けAppleシリコンの性能にも期待できます。

化され、その性能は35TOPSと従来の2倍になりました。この強力なニューラルエンジンと新しいGPUコアの組み合わせは「メタルFXアップスケーリング (MetalFX Upscaling)」と呼ばれる超解像技術を実現し、ゲームプレイや動画再生時にわずかな電力で大幅に高画質化できます。また、新たにAV1デコーダがメディアエンジンに追加されたことで、配信動画再生時のシステム負荷が大幅に軽減。より高画質で長時間のバッテリー再生が可能になりました。

また、A17プロのUSB-CコネクタはUSB 3に対応し、iPhone 15プロ/15プロマックスの最大転送速度は10Gbpsです。これによって外付けストレージへの高速なアクセスが可能になったほか、プロレス4K/最大60pでの撮影も行えるようになりました。

これまで、「Aシリーズ」チップの進化はMac向けアップルシリコン「Mシリーズ」に引き継がれてきました。今回のA17におけるGPU強化は、Macがほかのプラットフォームからゲームタイトルを移植するうえで欠かせない技術ばかりです。今後、A17プロの技術を活用したMシリーズが登場するのが今から待ち遠しいところです。

# 現行iPhone シリーズで モデルを選ぶ ポイントは？

文●小平淳一

新iPhoneの発表に伴い、ラインアップ構成が変更されました。ここまで取り上げてきたiPhone 15シリーズ4モデルに加え、iPhone 14/14プラス/13/13 SE(第3世代)を選択できます。iPhone 13ミニの販売が終了したことで、「ミニ」を冠する製品は販売ラインアップから姿を消しました。また、今回の新モデル発表後にiPhone SE(第3世代)を除く既存モデルは価格の見直しが行われており、各7000〜1万2000円も値下げされていることに注目です。このような背景もあり、iPhoneの買い替えを検討している人の中には「最近ではモデルごとの性能差も少なくなってきたし、旧モデルを購入してもよいかも」と感じているかもしれません。旧モデルの購入を視野に入れている人は、新旧モデルの価格差

iPhone 15	iPhone 15 Plus	iPhone 15 Pro	iPhone 15 Pro Max
<b>128GB</b> 12万4800円 <b>256GB</b> 13万9800円 <b>512GB</b> 16万9800円	<b>128GB</b> 13万9800円 <b>256GB</b> 15万4800円 <b>512GB</b> 18万4800円	<b>128GB</b> 15万9800円 <b>256GB</b> 17万4800円 <b>512GB</b> 20万4800円 <b>1TB</b> 23万4800円	<b>256GB</b> 18万9800円 <b>512GB</b> 21万9800円 <b>1TB</b> 24万9800円
 6.1インチ Super Retina XDRディスプレイ 2556×1179ピクセル、460ppi	 6.7インチ Super Retina XDRディスプレイ 2796×1290ピクセル、460ppi	 6.1インチ Super Retina XDRディスプレイ 2556×1179ピクセル、460ppi ProMotionテクノロジー 常時表示ディスプレイ	 6.7インチ Super Retina XDRディスプレイ 2796×1290ピクセル、460ppi ProMotionテクノロジー 常時表示ディスプレイ
A16 Bionicチップ	A16 Bionicチップ	A17 Proチップ	A17 Proチップ
USB-C (USB 2対応)	USB-C (USB 2対応)	USB-C (USB 3対応)	USB-C (USB 3対応)
 先進的なデュアルカメラシステム (48MPメイン、12MP超広角) シネマティックモード ナイトモード 4Kビデオ撮影	 先進的なデュアルカメラシステム (48MPメイン、12MP超広角) シネマティックモード ナイトモード 4Kビデオ撮影	 Proのカメラシステム (48MPメイン、12MP超広角、12MP望遠) シネマティックモード ナイトモード 4Kビデオ撮影 マクロ撮影(写真・動画) LiDARスキャナ	 Proのカメラシステム (48MPメイン、12MP超広角、12MP望遠) シネマティックモード ナイトモード 4Kビデオ撮影 マクロ撮影(写真・動画) LiDARスキャナ
TrueDepthカメラ(12MP) f/1.9絞り値	TrueDepthカメラ(12MP) f/1.9絞り値	TrueDepthカメラ(12MP) f/1.9絞り値	TrueDepthカメラ(12MP) f/1.9絞り値
MagSafeおよび Qi/Qi2ワイヤレス充電	MagSafeおよび Qi/Qi2ワイヤレス充電	MagSafeおよび Qi/Qi2ワイヤレス充電	MagSafeおよび Qi/Qi2ワイヤレス充電
空間オーディオ再生 ドルビーアトモスに対応	空間オーディオ再生 ドルビーアトモスに対応	空間オーディオ再生 ドルビーアトモスに対応	空間オーディオ再生 ドルビーアトモスに対応
Face ID	Face ID	Face ID	Face ID
 ビデオ再生 :最大20時間 オーディオ再生:最大80時間	 ビデオ再生 :最大26時間 オーディオ再生:最大100時間	 ビデオ再生 :最大23時間 オーディオ再生:最大75時間	 ビデオ再生 :最大29時間 オーディオ再生:最大95時間



## FEATURE 1

と性能差のバランスが見合っているかどうか、スペックを慎重にチェックしながら検討を進めましょう。

とりわけ注目すべきポイントとしては「カメラ性能」と「インターフェイス」が挙げられます。搭載するチップによっても差は生まれますが、日常的な使用感としては、カメラ周りの機能や性能に差を感じることは多いでしょう。たとえば、iPhone 14と15ではメインカメラの画素数が大きく変わりました。同時に、iPhone 15が2倍ズームに対応したことは使い勝手のうえで大きな差となるでしょう。

また、インターフェイスの差は接続する周辺機器やアクセサリにも影響してきます。ライティングを搭載した旧モデルであれば、今まで使ってきたアクセサリがそのまま活かせるのがメリットです。しかし、今後はUSB-C接続のiPhone向けアクセサリが増えていくと考えられ、数年後にはライトニングであることがアクセサリ選びの大きなネックになる可能性もあります。今回iPhoneを買い替える際には、購入したデバイスをどれくらいの期間使うかもイメージしながら検討するよいでしょう。

### ● 現行iPhoneシリーズのスペック表

	iPhone SE (第3世代)	iPhone 13	iPhone 14	iPhone 14 Plus
モデル				
カラー				
価格 (Apple Store)	64GB 6万2800円 128GB 6万9800円 256GB 8万4800円	128GB 9万5800円 256GB 11万8000円 512GB 14万8000円	128GB 11万2800円 256GB 12万7800円 512GB 15万7800円	128GB 12万4800円 256GB 13万9800円 512GB 16万9800円
ディスプレイ	 Retina HDディスプレイ 1334 × 750ピクセル、 326ppi	 Super Retina XDRディスプレイ 2532 × 1170ピクセル、460ppi	 Super Retina XDRディスプレイ 2532 × 1170ピクセル、 460ppi	 Super Retina XDRディスプレイ 2778 × 1284ピクセル、 458ppi
チップ	A15 Bionicチップ	A15 Bionicチップ	A15 Bionicチップ	A15 Bionicチップ
インターフェイス	Lightning	Lightning	Lightning	Lightning
背面カメラ	 シングル12MPカメラ (メイン)	 デュアル12MPカメラシステム (メイン、超広角) シネマティックモード ナイトモード HDR ビデオ撮影	 デュアル12MPカメラシステム (メイン、超広角) シネマティックモード ナイトモード 4K ビデオ撮影	 デュアル12MPカメラシステム (メイン、超広角) シネマティックモード ナイトモード 4K ビデオ撮影
前面カメラ	 FaceTime HDカメラ 7メガピクセル f/2.2絞り値	 TrueDepthカメラ 12メガピクセル f/2.2絞り値	 TrueDepthカメラ 12メガピクセル f/1.9絞り値	 TrueDepthカメラ 12メガピクセル f/1.9絞り値
ワイヤレス充電	Qiワイヤレス充電	MagSafeおよびQiワイヤレス充電	MagSafeおよびQiワイヤレス充電	MagSafeおよびQiワイヤレス充電
オーディオ	ステレオ再生	空間オーディオ再生 ドルビーアトモスに対応	空間オーディオ再生 ドルビーアトモスに対応	空間オーディオ再生 ドルビーアトモスに対応
認証方式	Touch ID	Face ID	Face ID	Face ID
バッテリー	 ビデオ再生 :最大15時間 オーディオ再生:最大50時間	 ビデオ再生 :最大19時間 オーディオ再生:最大75時間	 ビデオ再生 :最大20時間 オーディオ再生:最大80時間	 ビデオ再生 :最大26時間 オーディオ再生:最大100時間



▶ PLUS ONE

## 今さら聞けない!? 5G通信の基礎基本と利用方法を解説 5Gを使いこなして高速で通信しよう!

### ✓ CHECK そもそも「5G」って一体なに?

「5G (ファイブジー)」とは「第5世代の移动通信システム」を指し、「大容量」「高速」「超低遅延」「多数同時接続」の4つが特徴として挙げられます。5Gの最大通信速度は10Gbps程度にまで達し、データ送信時の遅延も約1mm秒です。理想的な条件が整った場合、4Gだと大容量のデータをダウンロードするのに数分はかかっていたところ、5Gだと数秒で完了することもあります。

国内では2020年から商用利用がスタートしており、すでに多く

のキャリアが5Gに対応する通信プランを展開しています。たとえばMNO各社の通信プランでは標準で5G対応を謳うプランが多く、利用に際して料金がかからないケースがほとんどです。

しかし、5G利用時のデメリットも存在します。4Gエリアとの境目で通信が不安定になったり、境目で何度も通信するためか端末のバッテリー消費が速くなる例があるのです。また、5G対応端末は近年発売のモデルに限られることは覚えておきましょう。

### ● ユーザ視点での長所と短所

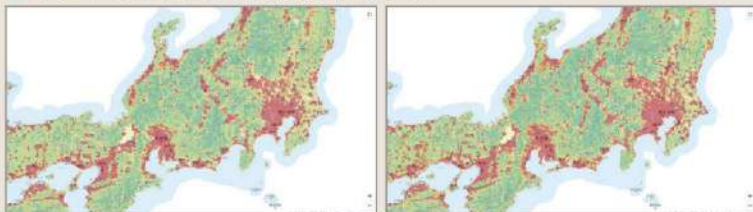
#### ○ メリット

- コンテンツのダウンロード速度が高速
- 5G対応プランでも料金がほぼ変わらない
- 5G対応エリアでは通信が安定しやすい

#### × デメリット

- 5G対応デバイスは高額なケースが多い
- 5Gを利用できるエリアは限られる
- 端末のバッテリー消費が激しい場合も

### ● 少しずつ5Gエリアは広がっている



MNO各社の公式Webサイトでは、5G通信をカバーしているエリアを確認できます。たとえば、図はドコモが公開しているサービスエリアマップ。2023年9月3日時点での対応エリア(左)と、2024年2月末に対応予定のエリア(右)で、赤い部分が5G対応エリアです。東名阪のような都市部では5G対応がかなり進んでいるほか、対応エリアは徐々に広がっていることがわかります。

### ✓ CHECK 実際に5Gで通信するには?

5G通信を利用するには、①5G対応の端末で、②対応プランを契約し、③対応エリア内で通信するという3つの条件を揃える必要があります。iPhoneの場合、①についてはiPhone 12シリーズ以降およびiPhone SE (第3世代)が対応。②もMNO / MVNO問わず数多くのプランが用意されています。ただし、一部プランでは有料でオプションを申し込む必要があるほか、無料ではあるものの契約しているキャリアのマイページやアプリから設定を切り替えるな

ど、一定の操作が必要なケースもあります。③については、5Gの商用利用がスタートした2020年当時から比べて、現在はかなり拡充しています。都心部のランドマーク周辺だけでなく、住宅地でも5Gを利用できる可能性は十分にあるでしょう。

また、5G通信を利用するにはiPhone側の設定を変更する必要があります。「設定」アプリから簡単な設定をするだけですが、意外と忘れがちなので気をつけましょう。

### ● iPhoneの設定を変更しよう



① iPhoneで5Gの電波を受信できるように、設定を変更しましょう。まずは「設定」アプリ→「モバイル通信」→「通信のオプション」をタップします。



② [通信のオプション]画面で、→[音声通話とデータ]を選びましょう。



③ [音声通話とデータ]画面で、[5Gオート][5Gオン][4G]のいずれかを選択できます。[4G]は文字どおり4G通信のみを利用する設定で、[5Gオート]は5G通信が利用できるシーンで自動的に5Gを受信する設定、[5Gオン]は常に5Gをオンにする設定です。



## POINT③

MNOの  
スマホデビュー  
プラン

日本国内での3G通信サービスがここ数年以内で終了するため、今後はフィーチャーフォン（いわゆる「ガラケー」）では通信できなくなります。KDDIはすでに2022年3月末にサービスの提供を終了しており、ソフトバンクは2024年1月末、ドコモは2026年3月末に終了予定です。そのため、先を見据えて子どもや両親世代のためにiPhoneの購入を考えている人もいるでしょう。このようなシーンでは、MNO各社の「スマホデビュープラン」も候補に上がります。

スマホデビュープランは、各社が設定した条件（契約者の年齢やガラケーからの機種変更など）に当てはまる場合のみ契約可能で、誰でも契約できるわけではありません。しかし、プランによっては5分の無料通話が付帯していたり、導入後1年間はかなり安価に利用できるケースがあったりと、それぞれに魅力があります。

候補となる選択肢は、「ドコモの「はじめてスマホプラン」「U15はじめてスマホプラン」とKDDIの「スマホスタートプラン5G/4G」、ソフトバンクの「スマホデビュープラン+」の4つです。選べる通信容量は、ドコモが3種類（1/5/10GB）、KDDIが1種類（20GB）、ソフトバンクが2種類（4/20GB）と、各社で設定しているプランに大きく差が現れているのが特徴です。なお、ドコモの「はじめてスマホプラン」は通信容量が1GB。快適な通信環境とリーズナブルな料金を維持するためには、外出先でフリーWiFiなどをうまく利用して、データ通信量を賢く節約する必要があるでしょう。

ちなみに、基本料金と使える通信容量だけに注目すると、スマホデビュープランはオンライン専用プランに比べて少し割合になるケースもあります。しかし、スマホデビュープランであれば、キャリアショップでのサポートを受けられるほか、キャリアメールや留守番電話サービスなども提供されているのはメリット。このような付加価値に魅力を感じるようであれば、契約を検討してみましょう。

## ●MNO3キャリアのスマホデビュープラン料金表

プラン名称	はじめてスマホプラン	U15はじめてスマホプラン	スマホスタートプラン 5G / 4G	スマホデビュープラン+
事業者	ドコモ	ドコモ	KDDI	ソフトバンク
概要	ドコモが提供しているFOMAからの契約変更や、他社3G回線から乗りかえるユーザーが対象のプラン。最大12カ月間は月額料金が割引され、毎月1GBまで通信できます（超過後の通信速度は最大128kbps）。外出先でデータ通信をほぼ利用しないという人が選ぶとよいでしょう。	利用ユーザーが15歳以下であることを条件に、新規契約や契約変更（FOMA→Xi、FOMA→5G）などで適用できるプラン。利用者が満19歳を迎えるとデータ容量が大幅に減るものの、数年間は安価に利用できるほか、5分以内の通話も無料なのがメリットです。	auや他社のフィーチャーフォンから乗り換えるユーザーおよび22歳以下の新規契約（他社からの乗りかえは除く）で利用できるプラン。ドコモ提供の「はじめてスマホプラン」のように無料通話は用意されていませんが、割引を適用すれば安価に20GBの容量を利用できるのはメリットです。	ソフトバンクの新規契約（回線を使うのが5歳～22歳以下）およびフィーチャーフォンからスマホへの機種変更／乗り換えで利用できるプラン。KDDI提供の「スマホスタートプラン5G/4G」と同様、契約翌月から1年間はオンライン専用の20GBプランと同程度の金額で利用できるのが特徴です。
月額料金	●～1GB:1815円 （最大割引後12カ月間は1078円、13カ月目からは1628円） ※1GB追加オプション:1100円	●～5GB:1980円 （最大割引後1628円） ●～10GB:2860円 （最大割引後2508円） ※1GB追加オプション:1100円 ※最大12カ月間、期間・用途限定のdポイントを500～1000円/月進呈	●20GB:4103円 （最大割引後、契約翌月から1年間は2728円/22歳以下であれば1628円、2年目以降は3916円）	●4GB:2266円 （最大割引後、契約翌月から1年間は1078円、14カ月目以降は2266円） ●20GB:3916円 （最大割引後、契約翌月から1年間は2728円、14カ月目以降は3916円）
通話オプション	●かけ放題オプション:+1100円	●かけ放題オプション:+1100円	●通話定額ライト2:+880円 ●通話定額2:+1980円 （60歳以上は+880円）	●準定額オプション+:+880円 ●定額オプション+:+1980円 （60歳以上は+880円/キャンペーン期間未定）
各種割引	●はじめてスマホISP割:-165円 ●dカードお支払い割:-187円 ●はじめてスマホ割 （最大12カ月間）:-550円	●U15はじめてスマホISP割:-165円 ●dカードお支払い割:-187円 ※「みんなドコモ割」のカウント対象プランだが、当プランへの割引はなし	●au PAY カードお支払い割:-187円 ●スマホスタート1年割:-1188円 （契約翌月から1年間） ●スマホスタート1年割プラス（U22）:-1100円（契約翌月から1年間）	●1年おトク割+: -1188円（1年間）

ドコモ、KDDI、ソフトバンクの3社が提供する段階制定額プランの料金表。MNO各社のオンライン限定プランとは異なり、キャリアの各種サポートを受けられる点がポイントです。なお、ドコモの「はじめてスマホプラン」は通信容量が1GBなので、Wi-Fiをメインに運用できる環境かつ、外出時に利用するのはほぼ電話のみというユーザーに適しています。

とにかく維持費の安さを追求したいならば、格安SIMも検討候補に挙がってきます。ここでは、MVNO各社が展開している格安SIMブランドに加えて、KDDIの「UQモバイル」とソフトバンクの「ワイモバイル」、ドコモが「ドコモのエコノミーMVNO」と銘打って展開している「OCN モバイル ONE」も含めて各種プランをチェックしていきましょう。

各ブランドでさまざまなプランが用意されていますが、下の表では月1〜5GBの高速通信を利用できる低容量プラン（相場は1000〜2000円弱）を中心にピックアップしました。通信量に注目すると、IIJmioが月額990円で月5GBを利用できるため、お得感で頭ひとつ抜き出ている印象です。

一方、基本料金はIIJmioのほうが安価なもの、「マイネオ (mineo)」や「BIGLOBEモ

POINT 4

**格安SIMの  
1~5GB  
プラン**

mineoの「**ポケット放題 Plus**」(月額385円 / 10GB以上のコース契約者は無料)は、無制限で通信できるオプションです。設定を切り替えると、最大通信速度が1.5Mbpsに制限される代わりに、通信量を消費しなくなります。

https://mineo.jp/service/data/packet-free/

「モバイル」の場合、オプションの契約や使い方を工夫すれば、容量無制限プランのように近い形で利用できる点は見逃せません。

一方、MNOが展開するサブブランド「UQモバイル」「ワイモバイル」でも、光回線のセット割などを適用すれば1000円前後で運用可能です。すでに割引対象となる光回線を契約していたり、家族でMNPを検討している場合などは候補として考えるとよいでしょう。また、サブブランドを展開しているのはMNOのため、MVNO各社に比べて通信速度が比較的安定しているのもメリットです。



● 主な格安SIMの料金表

ブランド名	UQ mobile	Y!mobile	OCN モバイル ONE	BIGLOBEモバイル	IIJmio	mineo
事業者名	KDDI	ソフトバンク	ドコモ	ビッグロープ	インターネット イニシアティブ	オプテージ
プラン名	ミニミニプラン	シンプルS	3GB / 月コース (音声対応SIMカード)	プランR (音声通話SIM)	5ギガプラン (音声SIM / 音声eSIM)	マイビタ 1GB (デュアルタイプ)
概要	外出時にはメール利用などが中心で、データ利用が少ない人向けのプラン。割引をフルで適用した場合、月額1078円で運用できるのがメリットです。	ソフトバンクのサブブランドが提供するプラン。割引適用後、月額990円で運用できます。10月以降、通信容量が1GB増量した「シンプル2 S」プランも登場予定です。	ドコモが完全子会社を吸収合併し、ドコモ自らが維持・運営するMVNOブランド。光回線とセットで月3GB / 770円と安価に利用できます。	[YouTube] など21サービスで通信容量が減らない「エンタメフリー」オプション(月額308円)を利用できるプラン。家族割適用後、月額1100円で利用できます。	他社MVNOブランドの月3GBのプランと同じ価格帯で5GB通信できるプラン。割引時は330円で利用できるほか、標準適用後、月額1100円でも通話料金が安価です。	ユニークな「 <b>ポケット放題Plus</b> 」オプションを利用できるプラン。これを適用すると、最大通信速度が最大1.5Mbpsになる代わりに容量無制限で通信できます。
通信回線	KDDI	ソフトバンク	ドコモ	タイプD:ドコモ タイプA:KDDI	タイプD:ドコモ タイプA:KDDI eSIM:ドコモ(4Gのみ)	Dプラン:ドコモ Aプラン:KDDI Sプラン:ソフトバンク
通信容量	4GB	3GB	3GB	3GB	5GB	1GB
月額料金	2365円 (最大割引後1078円)	2178円 (最大割引後990円)	990円 (最大割引後770円)	1320円 (最大割引後1100円)	990円 (最大割引後330円)	1298円 (最大割引後1133円)
余った通信容量の翌月繰り越し	○	○	○	○	○	○
追加費用なしで使える音声通話の特典例	—	—	—	[BIGLOBEでんわ]アプリからの国内通話料が9.9円 / 30秒に	通常の音声通話でも国内通話料が11円 / 30秒(「ファミリー通話割引」利用時は8.8円 / 30秒)	[mineoでんわ]アプリからの国内通話料が10円 / 30秒
通話オプション	●通話パック(60分/月):+550円 ●通話放題ライト:+880円 ●通話放題:+1980円	●だれとでも定額:+770円 ●スーパーだれとでも定額(S):+1870円	●10分かけ放題:+935円 ●トップ3かけ放題:+935円 ●完全かけ放題:+1430円	●3分かけ放題:+660円 ●通話パック60:+660円 ●10分かけ放題:+913円 ●通話パック90:+913円	●通話定額5分+:+500円 ●通話定額10分+:+700円 ●かけ放題+:+1400円	●10分通話パック:+110円 ●10分かけ放題:+550円 ●時間無制限かけ放題:+1210円
主な割引	●自宅セット割:-1100円 ●家族セット割:-650円 ※自宅セット割併用不可 ●au PAYカードお支払い割:-187円	●おうち割 光セット:-1188円 ●家族割引サービス:-1188円 ※一方のみ利用可能	●OCN光モバイル割:-220円	●BIGLOBE家族割:-220円 ●ビッグロープ光セット割:-220円 ※一方のみ利用可能	●mio割(IIJmioひかりとセット):-660円	●家族割引:-55円(デュアルタイプ3回線目以降は165円割引) ●複数回線割引:-55円 ※家族割引と併用不可

主なMVNOおよびMNOのサブブランドが提供する1〜5GB前後のプランを比較してみました。維持費をとにかく抑えて利用できるほか、オンライン専用プランや大容量プランにはない個性的なオプションも用意されているのが特徴です。特にIIJmioの「5ギガプラン」は割安で利用できるほか光回線割引を利用すると月額330円で利用できます。



発表会の現地参加者2名にズバリ聞いた!

# iPhone 15シリーズの実力 ジャーナリストはどう考える?

ここまでの解説を読んで、「iPhone 15シリーズの新機能は理解できたけど、実際の使い勝手はどうなんだろう」と感じた方もいるかもしれません。そこで、今回iPhoneが発表されたApple Eventに現地参加し、実機をひと足先に使い込んだ2人のジャーナリストに正直な感想をレビューしてもらいました。



山本 敦

IT・オーディオ関連のテクノロジーを専門とするフリーライター。今年は4年ぶりにドイツ・ベルリンで毎年開催されるエレクトロニクスショー「IFA」取材しました。



松村 太郎

テクノロジーとライフスタイルを取材するジャーナリスト。米国カリフォルニア州パークレーに8年間移住し、GAFAやスタートアップを直接取材。iU専任教員。

## Q iPhone 15シリーズを使ってみた 率直な感想を教えてください!



山本さん

iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxに採用されたチタニウムは、金属の質感がきれいに出る素材ですが、衝撃にそこまで強くないイメージがありました。発表時は「iPhoneのボディ素材として相応しいんだろうか」と思いましたが、**数日間使ってみただけで「傷つきやすそう」とは感じませんでした**。エッジ部のデザインが刷新されたことで手に馴染みやすくなったので、そもそも落としにくくなった印象もあります(ただ、見たままのデザインだけを考えると、iPhone 14シリーズのようなシャープなエッジが好みかな)。



松村さん

iPhone 15シリーズは全モデルでフレームのエッジが丸められているので、滑らかな触り心地と握りやすさを感じました。また、iPhone 15 Proシリーズは約19gずつ軽量化されたので、iPhone 15 Pro Maxでさえも**“ずっしり感”**がかなり軽減されています。iPhone 15 Proに至っては、**重さがネック**になってProモデルを諦めていた人も**選びやすくなる**のではないのでしょうか。



iPhone 15 Proの「ナチュラルチタニウム」カラー。エッジ部は金属特有の色合いを強く押し出した印象です。なお、背面ガラスはiPhone 14 Proシリーズと比べて、サラサラした質感になりました(山本)。

## Q USB-Cの使い勝手は いかがでしたか?



松村さん

自宅や車ではMagSafeで充電しているのですが、充電環境への変化はありませんでした。ただ、Macのために用意している充電ケーブルを**使えるようになったこと**で、「ちょっとした時間に充電しておこう」と思えるのはよいですね。周辺機器との接続に関して個人的にもっとも楽しみにしているのが、最近増えてきた**サン****グラス型のウェアラブルデバイスとの接続**です。iPhoneと有線接続すれば、くつろいだ姿勢で映像視聴を楽しめるので、飛行機や新幹線などの長距離移動で便利そうです。



撮影した動画をそのまま外付けストレージに保存できるので、バックアップが面倒という問題も解決してくれました。

## Q iPhone 15 Pro / 15 Pro Maxで初搭載された アクションボタンは便利に感じましたか?



山本さん

アクションボタンを押したあとにすぐ離すと、割り当てられた機能名が画面に表示されます。長押しすることで機能を実行できるようにUI(ユーザーインターフェイス)が工夫されているので、**誤操作を防ぎやすいのが好印象**でした。アクセシビリティ機能として提供されている「背面タップ(iPhoneの背面を複数回タップする操作にアクションを割り当てる機能)」と比べて、期待する操作が**“着実に”**行えるのも気に入っています。また私は職業柄、iPhoneの「ボイスメモ」アプリを使う機会が多いのですが、アクションボタンに「ボイスメモ」の起動を割り当てられるのもうれしいところ。「ショートカット」アプリでショートカットを作り込めば、アクションボタンで任意のアプリを起動したり、IoTデバイスのリモコン操作ができるのもよいですね。便利かつ**“未来感”**のある使い方が広がりそうです。



アクションボタンの設定画面。ほかの設定画面とは異なる独自のUIが採用されており、今後このようなUIが増えていくのが気になっています。



## Q iPhone 15シリーズの購入にあたり、 気をつけたほうがいいことはありますか？



山本さん

Appleが発表したすべての機能が日本国内で利用できるわけではありません。その一例が、iPhone 15シリーズが搭載する「第2世代の超広帯域無線(UWB)チップ」による機能です。このチップは、iPhoneの場所をこれまで以上に細かく探せる「正確な場所を見つける」機能や「友だちを探す」機能に活用されていますが、日本では残念ながら使用できません。その理由は、新しいUWBチップが使う無線電波の仕様が日本国内の無線規制に抵触するからです。また、衛星経由のロードサービスも発表されましたが、これも日本では対応なし。衛星を経由した通信はセルラー通信よりも広範囲でつながりやすいのがメリットで、セルラー通信が利用できない山奥などで緊急事態に陥ったときに役立つかもしれません。今後、日本でも衛星通信の関連サービスを地ならして、満を持した形で対応することを期待しています。



iPhone 15シリーズでは、アメリカ自動車協会(AAA)が提供するロードサービスに衛星通信経由で緊急メッセージを発信できます。ただし、日本国内では利用できません。

## Q 今回のiPhone 15シリーズで サウンド面の進化はあるのでしょうか？



山本さん

iPhoneの音質自体に大きな変化はないようですが、サウンド体験の向上は期待できるでしょう。たとえば、iPhoneはDACアンプと有線イヤホン/ヘッドフォンを接続することで最大192kHz / 24bitのハイレゾリューション音源を楽しめますが、Lightningコネクタ仕様のDACアンプは種類が少ないのがネックでした。一方、USB-Cであれば、バリエーション豊かです。今後はiPhone 15シリーズへの対応を謳ったDACアンプも出てくるはずなので、これまでと比べて一段とハイレゾ音源を楽しみやすくなるでしょう。



iPhone 15シリーズは4モデルともUSB-Cコネクタを搭載。ポータブルタイプのDACアンプなど、iPhoneを使ったオーディオリスニングが楽しくなる周辺機器が増えていきそうです。

## Q iCloudのプランに6TBと12TBが 増えましたが、どんなシーンで 活用できるのでしょうか？



松村さん

私はここ数年、すべての写真や動画を「写真」アプリに取り込んでデバイス間で同期しています。最近は動画を撮影する機会が増えたことでiCloudのストレージ容量が逼迫していたので、6 / 12TBプランの登場は有益に感じました。これらのプランが登場したことで、iPhoneでProRAWもしくはProRes形式で気軽に写真や動画を撮影しやすくなるでしょうし、iPhone 15シリーズの512GBや1TBモデルを選ばずともストレージに余裕を持って運用できます(iCloudのコストはかかりますが…)



50GB (130円)、200GB (400円)、2TB (1300円)といった従来のプランに加え、新たに6TB (3900円)、12TB (7900円)が追加されました。

## Q iPhone 15シリーズを購入しますか？ 購入する場合、どのモデル／容量／色を選びますか？



山本さん

今使っているiPhone 14 Proとの重量差を体験したく、iPhone 15 Proを購入するつもりでした。しかし、iPhone 15 Pro Maxはカメラがさらに優秀ですし、大画面でゲームを遊びたい気持ちも日増しに高くなってきているので悩んでいます。カラバリはナチュラルチタニウムが気に入りましたが、ケースに入れずに使うと意外に指紋や皮脂汚れが目立ちやすいのは難点ですね…。また、いくらH1EF形式が高効率といっても、積みも積もってファイル容量が肥大しそうなこともあり、ストレージ容量は256GB以上にしようと思います。



松村さん

長らくPro Maxモデルを使ってきたので、今回もiPhone 15 Pro Maxを購入します。iPhone 15 Pro Maxをはじめて手にしたときに感じた圧倒的な軽さや握り心地は、これまでとまったく異なる体験でした。また、写真／動画を撮影する機会が多いので、ストレージ容量は余裕を持って使える512GBを選びます。色に関しては、“チタン萌え”の私としては素材感が強調されたナチュラルチタニウム一択に思いましたが、ほかのカラーも洗練された美しさがあるので悩んでいます。



iPhone 15 Proのブラックチタニウムカラー。今回のProシリーズは特に重厚感やシックさを感じる美しい仕上がりです(松村)。



## STEP 1



購入場所を選ぶ

# 販売店ごとの特徴を知って 最適な購入場所を見極めよう!

新iPhone  
スタートガイド

# 1

買う場所と通信プランをもっと上手に選ばよう!

# 新モデルを購入・契約する

さあ、どいて買っちゃっ。

新しいiPhoneを買うときにオススメの購入先は、アップルストア (Apple Store) です。アップル製品の知識が豊富な店舗スタッフから、製品の細かい情報を教えてもらいながら購入できますし、キャリアとの契約や機種変更の手続きも同時に行えるため初心者でも安心です。ほかの購入先としては、主にキャリアショップや家電量販店が挙げられます。どちらも全国各地に実店舗があるため足を運びやすいほか、各キャリアとの契約も行えます。なお、オンラインショップを展開しているショップも多いですが、店舗スタッフに相談しながら購入や契約を進めることができないため、モデル選びや通信プランに関する知識はある程度必要です。

また最近では、アップル認定の販売代理店 (Apple Premium Reseller) が増えているのもポイント。購入前の相談から設定、データ移行、修理まで一貫したサービスを提供しています。

## キャリアショップ

キャリアショップ (ドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイルなど) で購入するメリットは、店舗数の多さとサポートの手厚さ。Apple 以外の製品も取り扱っているため、他社製スマホやフィーチャーフォンからの乗り換えもスムーズです。契約内容が複雑な場合もありますが、家族割や自宅のネット回線と合わせて契約すると月額費がお得になる通信プランもあるのはメリットでしょう。



## Apple Store

日本全国に10店舗を構える、Apple 直営のストアです。iPhone の購入や使用方法に関する疑問をマンツーマンで相談できるため、初期設定や端末の移行設定に不安がある人は Apple Store での相談 / 購入がオススメです。なお、Apple Store は公式 Web サイトやアプリ上での来店予約にも対応。混雑を避けてスムーズに購入を進めるためにも、予約してから行くようにしましょう。



## Apple 認定の販売代理店

Apple 認定の販売代理店「Apple Premium Reseller」は、Apple 製品の購入から設定、修理、利用方法のサポート、下取りなど、一貫したサービスを提供しています。このような販売代理店には、Apple の専門研修を受けたスタッフが在籍しているのも特徴です。Apple Store が遠方で利用するのが難しいときは利用してみるのもひとつの手でしょう。



## 家電量販店

家電量販店も、店舗数が多くて足を運びやすいのがメリットです。店舗独自のポイントサービスが豊富かつ独自のキャンペーンを展開していることもあるので、よりお得に iPhone を手に入れられるかもしれません。また、「Apple Shop」と呼ばれる Apple 公認販売スペースを構える店舗もあるので安心感もグッドです。



新しい iPhone に乗り換える前に慎重に検討したいのが、新モデルを購入する場所およびキャリア / 通信プランです。選択肢は多いので、それぞれのメリットとデメリットを検討して、自分に合うものを見つけていきましょう。  
文・井上宛

STEP 2



通信プランを選ぶ

# 通信プランの種類を把握して自分に合った選択肢を絞り込もう

## まず事業者を知ろう

円安傾向が続く昨今、ここ数年はiPhoneも値上げを重ねる一方です。しかし、それと並行してスマホ向けの通信プランはバリエーションが豊富になり、これまでと比べて安価に利用できるものも増えてきました。新モデルの購入とともに通信プランを見直せば、最終的な維持費を抑えられるかもしれません。

しかし、キャリア／通信プランは数多いほか、契約内容は非常に複雑。基本的な知識が少ないうえ、いままでの知識が少ないうえ、そのため、ここではキャリアおよびプランをおおまかに分類するための知識を解説していきます。「MNO」「サブブランド」「オンライン専用プラン」「MVNO」といった4つのキーワードに関する理解を深め、自分にとって最適なキャリアと通信プランを選びましょう。

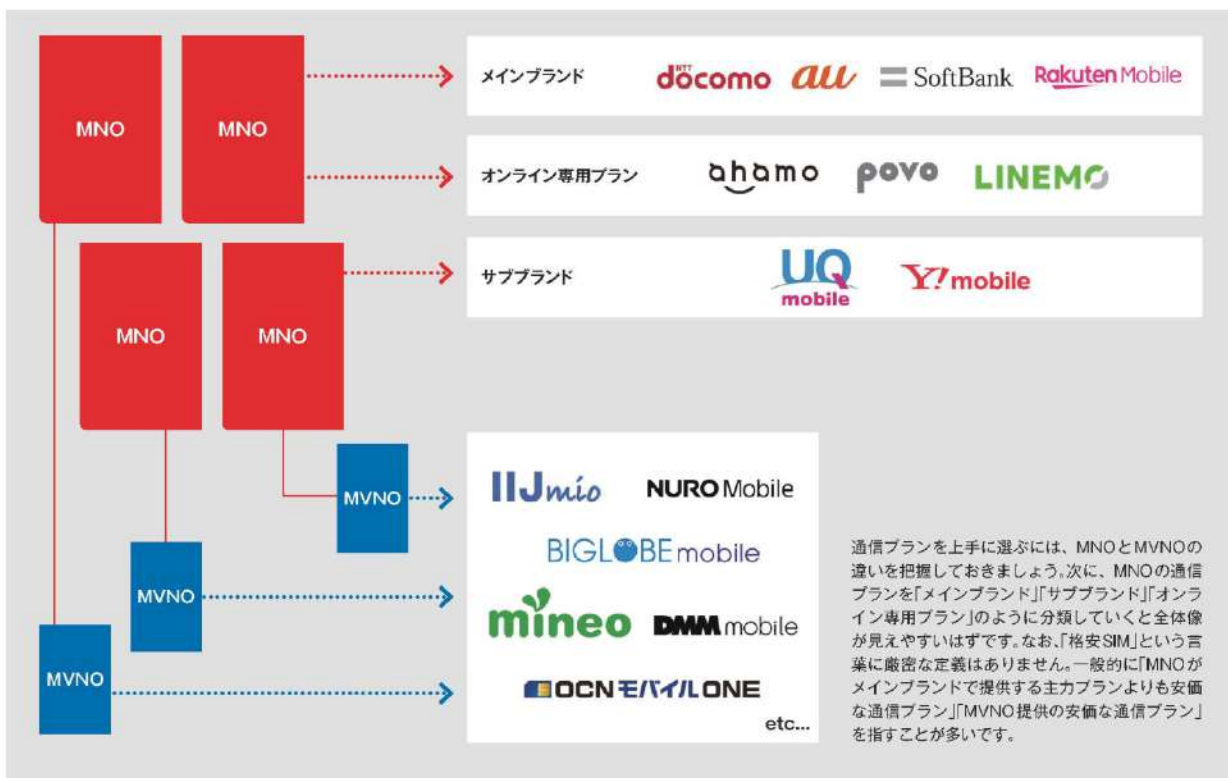
まずMNO (Mobile Network Operator: 移動体通信事業者) とは、自社で通信回線網を所有する4社のキャリア(ドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)を指しています。MNO各社は通信容量が無制限の主力プランを展開するほか、これよりも安価な料金で利用できるブランド／通信プランを用

意しているケースもあります。

このようなブランドは「サブブランド」と呼ばれ、KDDIが「UQモバイル(UQ mobile)」、ソフトバンクが「ワイモバイル(Wi mobile)」を展開しています。またMNOのなかには、サポートをオンライン対応に限定するなど、コストを削減することとで料金を安く設定した通信プラン「オンライン専用プラン」を用意するキャリアも存在します。具体的には、ドコモの「アハモ(ahamo)」、KDDIの「ポヴォ(povo)」、ソフトバンクの「ラインモ(LINEMO)」がこれに当たります。

そして、MNOの通信回線網を借りて通信サービスを提供している事業者が「MVNO (Mobile Virtual Network Operator: 仮想移動体通信事業者)」。たとえば、ドコモおよびKDDIの通信網を利用できる「IIJmio (IImio)」が提供する「5ギガプラン」の場合、5GBで月額990円といった料金設定など、MNOに比べて圧倒的に安価なプランが多いのが特徴です。ただし通信回線をMNOに借りているため、利用者が多い時間帯は通信速度が遅めになるケースもあるなど、利用にあたって注意したいポイントも存在します。

## ●まずはMNOとMVNOの違いを理解しよう





## POINT①

MNOの  
オンライン  
専用プラン

楽天モバイル以外のMNO3社が展開する「オンライン専用プラン」は、申し込みやカスタマーサポートをオンライン対応に絞ることでコストカットを図っています。基本料金が非常にリーズナブルで通信容量も多いため、MNO各社がこれまで提供していた主力プランより安価な運用が期待できるでしょう。

ドコモのahamo、KDDIのポヴォ、ソフトバンクのラインモがこれに該当し、それぞれ特徴があります。たとえば、ahamoは基本料金内で国際ローミングに対応しています。ラインモは「LINE」利用時は通信容量を消費せず利用できるほか、一部プランでは100万種類以上のLINEスタンプが使い放題です。そしてポヴォは基本料金が0円で、必要な通信容量や通話オプションなどを「トッピング」として購入する仕組みを採用しています。1GB(7日

間)、20GB(30日間)など、多くのトッピングを選択できるため、月によって利用する通信容量が大きく変動するユーザーは特にお得な運用が期待できるでしょう。

ただし、特にMNOの大容量プランや従量制プランを契約している人は、オンライン専用プランの契約時に注意したいポイントもあります。

たとえば、ahamo、ポヴォ、ラインモにはキャリアメール(メールアドレス)が提供されていません。それまで使っていたキャリアメールの利用を継続できるサービスもあります。追加料金を支払う必要があるほか、このサービスに申し込むための期限も決められています。たとえば、ソフトバンクが提供する「メールアドレス持ち運び」サービスの場合、対象プランの解約後31日以内に申し込む必要があります。月額330円または年額3300円を支払わなければなりません。

また、オンライン専用プランは基本的にはMNOが提供する家族割の対象にならないほか、プランの契約やサポートもオンラインに限定されます。これまでキャリアアの店頭や電話窓口で困りごとを相談していた人は注意したほうがよいでしょう。

## ●オンライン専用プランの料金表

プラン名称	ahamo	povo	LINEMO
事業者	ドコモ	KDDI	ソフトバンク
概要	ドコモが提供するオンライン専用プラン。追加料金を支払わずに、海外82の国・地域で国際ローミングサービスを利用できます。その際に、基本の月20GBの容量を利用できますが、80GB追加オプション利用時でも最大20GBかつ、海外では15日経過後に速度制限がかかる点には注意しましょう。	KDDIが展開するオンライン専用プラン。基本料金を0円とし、国内での通話料や通話料、海外での通話料などを「トッピング」として選んで利用する仕組みです。ahamoやLINEMOに比べて通信容量超過時の通信速度が低速ですが、使い方に合わせて柔軟にプランを選ぶ点は大きいメリットでしょう。	ソフトバンクが展開するオンライン専用プラン。「LINE」では通信容量を消費しない「LINEギガフリー」が特徴的で、手続きやサポートもLINE上のチャットサービスから行えます。なお、国際ローミングを利用するには別途料金が必要なので、海外での利用を視野に入れている場合は注意しましょう。
使用する回線	ドコモの4G / 5G	KDDIの4G / 5G	ソフトバンクの4G / 5G
使用できる通信容量	20GB	1GB(7日間) ~ 150GB(180日間)、24時間使い放題	20GB(スマホプラン) 3GB(ミニプラン)
料金	●2970円/月 (+550円で1GB追加) (+1980円で80GB追加)	●330円(使い放題 / 24時間) ●390円(1GB / 7日) ●990円(3GB / 30日) ●2700円(20GB / 30日) ●6490円(80GB / 90日) ●1万2980円(150GB / 180日)など	●2728円/月(スマホプラン) ●990円/月(ミニプラン) (両プランともに+550円で1GB追加)
通信容量超過時の通信速度	最大1Mbps	最大128kbps	最大1Mbps(スマホプラン) 最大300kbps(ミニプラン)
通話オプション	●5分以内の国内通話無料: 標準付帯 ●国内通話かけ放題: +1100円	●5分以内かけ放題: +550円 ●国内通話かけ放題: +1650円	●5分以内の国内通話無料: +550円 ●国内通話かけ放題: +1650円
契約やサポート	Webサイト(1回3300円でWeb申し込みや各種手続きをサポートするサービスも提供)	Webサイト	Webサイト、LINE
キャリアメール	—	—	—
eSIMプランの提供	○	○	○

MNO各社から続々登場している新プランの中でも安価に利用しやすいのが、3大キャリアが展開する「オンライン専用プラン」です。基本料金が非常にリーズナブルで、使用できる通信容量も豊富。一方で、キャリアメールが使えないほか、申し込みやサポートがオンライン限定など、注意したいポイントもあります。



オンライン専用プランの詳細は、各ブランドのWebサイトから確認しましょう。

☞ <https://ahamo.com/>



povoのトッピングには、「データ使い放題(24時間 / 330円)」「データ追加20GB(30日間 / 2700円)」などのほか、各種VODサービスの使い放題パックなど多様なバリエーションが用意されています。

☞ <https://povo.jp/spec/topping/list/>





## ▶ PLUS ONE

これまでの通信プランとココが違う!

## オンライン専用プランのQ&amp;A

## Q 申し込みはどこで行うの?

「オンライン専用プラン」と呼ばれるとおり、基本的には各社ブランドが用意する専用Webページから申し込みや手続きを行う仕組みです。ただし一部例外もあり、LINEMOではLINEのトーク画面を介した手続きが可能。基本的に、窓口や電話でのサポートを必要としないユーザが選ぶべきプランといえるでしょう。



画像は、povoの申し込みサイト。ahamoやLINEMOの場合も、基本的に店舗窓口でなく公式Webサイトで契約します。  
<https://povo.jp/procedure/new/>

## Q テザリングは使える?

テザリング (iPhoneなどのスマートフォンをWi-Fiルータ代わりにして、MacやiPadなどのデバイスでの通信に利用すること) には、ahamo、povo、LINEMOすべてが対応します。特別なオプションを申し込んだり、キャリアのマイページやアプリから設定を変更したりする必要もなく、契約後すぐに利用可能です。



オンライン専用プランでは、契約した通信容量の範囲内でテザリングを利用できます。各社のWebサイトでは、このような各種条件を細かく説明しているの、きちんと読んでから契約しましょう。  
[https://faq.ahamo.com/faq/show/97?category\\_id=28&site\\_domain=default](https://faq.ahamo.com/faq/show/97?category_id=28&site_domain=default)

## Q 店舗や電話でのサポートはある?

キャリアショップに駆け込んだとしても、基本的にサポート対応はしてもらえませんし、同様に電話サポートも実施されていません。ただし、ahamoの場合は3300円を支払うと、店舗窓口にて他社・他プランからの乗り換えや契約後の各種手続きに関してサポートを受けることができます。



2021年4月から、ドコモショップにおいて有料の「ahamo WEBお申し込み/お手続きサポート」が提供されています。なお、申し込み操作はユーザ自身で行います。  
[https://faq.ahamo.com/faq/show/310?category\\_id=20&site\\_domain=default](https://faq.ahamo.com/faq/show/310?category_id=20&site_domain=default)

## Q 家族割や学割はある?

povoとLINEMOでは、基本的に家族割や学割が適用されません。唯一ahamoに関しては、ドコモの「ファミリー割引」に申し込めますが、ahamo回線からの発信は家族間通話無料の対象外です。同一の「ファミリー割引」回線からahamo回線に発信する場合のみ通話料が無料になることを覚えておきましょう。



オンライン専用プランはすでに利用料金が割安のためか、povoとLINEMOには家族割や学割が用意されていません。一方、ahamoは制限があるものの、家族割に申し込むことは可能です。  
[https://faq.ahamo.com/faq/show/559?category\\_id=34&site\\_domain=default](https://faq.ahamo.com/faq/show/559?category_id=34&site_domain=default)

## Q 留守番電話サービスは利用できる?

留守番電話サービスは、現状LINEMOのみが提供しています。「留守番電話サービス」「着信転送サービス」「着信お知らせ機能」の3サービスがセットになった「留守電パック」を提供しており、月額220円で利用可能です。ahamoやpovoではこれらを利用できないので、メイン回線として契約する前に理解してしましましょう。



オンライン専用プランのうち、留守番電話サービスに対応しているのはLINEMOのみ。ただし、「留守番電話サービス」で伝言を保存できるのは30件まで/最大72時間という点は覚えておきましょう。  
[https://www.linemo.jp/service/answering\\_pack/](https://www.linemo.jp/service/answering_pack/)

## Q 契約期間によって料金は変わる?

ahamo、povo、LINEMOでは、「契約後1年間は割引が適用されるが、1年経過後は利用料金が高くなる」といった料金プランではありません(原稿執筆時点)。むしろ基本料金が安価なうえ、契約時に利用できるキャンペーンが展開されていることもあるため、お得に使い始めることができるケースも多いです。



LINEMOが「おトクすぎて、あぁ、もっとキャンペーン」を開催中。ミニプランは最大12カ月分、スマホプランは最大4カ月分の基本料金相当がPayPayポイントで還元され、実質無料で利用できます。  
[https://www.linemo.jp/campaign/aamoo\\_202308/](https://www.linemo.jp/campaign/aamoo_202308/)



POINT②

# MNOの 容量無制限 プラン

MNO各社は、通信容量が無制限で利用できるプランを主力の選択肢として提供しています。1カ月で利用した通信容量が少ないときは割引されますが、この場合はほかのプランのほうが安価なケースも多いため、やはり通信容量を気にせず使いたい人に最適でしょう。

容量無制限プランでは、基本的にオンライン専用プランで提供されない家族割や光回線セット割の対象になることも重要です。家族の通信プランや光回線を1社にまとめれば、安価に利用できるケースも多いはずですが、ただし、ここで注意しておきたいのは「無制限」になる対象。たとえば、あるプランではテザリングも無制限で使用できますが、一部のプランではテザリング/データシェア/国際ローミングは合計30GBまで、といった制限が設けられています。そのため、自分の使い方と「無制



通信容量無制限かつワンプランを提供するなど、MNOの主力プランの中でも特徴的なのが「Rakuten最強プラン」です。  
<https://network.mobile.rakuten.co.jp/fee/saikyo-plan/>

限」の対象を照らし合わせてプランを考えることが大切です。また、楽天モバイルの自社回線エリアは広がりつつありますが、いまだにパートナー回線を使うエリアも存在します。しかしながら、以前のような「パートナーエリアの高速通信は5GBまで」という制限は「楽天最強プラン」で撤廃されているので、新プランの詳細を確認してみることをおすすめします。ちなみに、「留守番電話やキャリアメールを使いたいけど、通信容量は無制限でなくてよい」という場合は、たとえば今年6月に発表されたドコモの「iirumo (iirumo)」を選ぶのもひとつの手。容量無制限プランより圧倒的に安価かつ、MNOの各種サービスも利用できます。

## ●MNOの容量無制限プランと「iirumo」の料金表

プラン名称	eximo	iirumo	使い放題MAX5G / 4G	メリハリ無制限	Rakuten最強プラン
事業者	ドコモ	ドコモ	KDDI	ソフトバンク	楽天モバイル
概要	テザリングも無制限で利用できるのが魅力のプラン。豊富な割引制度を活用すれば、月額料金から最大2387円/月を節約でき、容量無制限の通信容量を月額4928円で使用できます。	ドコモ提供の低容量プラン。オンライン専用プラン「ahamo」とは異なり、店舗でのサポートに対応するほか、光回線とのセット割なども対象になるのがポイントです。ただし、通信容量を超過した際の通信速度は最大で300kbps (0.5GBプランのみ128kbps)です。	各種割引の活用で、「eximo」と同じく、容量無制限の通信容量を月額4928円で使用できます。ただし、テザリングやデータシェア、世界データ定額は合計30GBまで。	最大割引後、容量無制限の通信容量を4928円で使用できます。「eximo」「使い放題MAX5G / 4G」とは異なり、特定のクレジットカードを利用した割引が用意されていないため、割引のためにクレジットカードを作成する手間がありません。	各社の容量無制限プランに比べて、月額料金が圧倒的にロープライスです。「Rakuten Link」アプリを利用すれば、国内通話が無料(一部の場合を除く)という点もメリットかつ、テザリング利用時の容量制限もありません。
使用する回線	ドコモの4G / 5G	ドコモの4G / 5G (※0.5GBプランは4Gのみ)	KDDIの4G / 5G	ソフトバンクの4G / 5G	楽天およびパートナー回線 (au) の4G / 5G
月額料金	● ~1GB:4565円 (最大割引後2178円) ● 1~3GB:5665円 (最大割引後3278円) ● 3GB~:7315円 (最大割引後4928円)	● 0.5GB:550円 ※割引適用なし/通信速度は最大3Mbps ● 3GB:2167円 (最大割引後880円) ● 6GB:2827円 (最大割引後1540円) ● 9GB:3377円 (最大割引後2090円)	● ~3GB:5588円 (最大割引後3278円) ● 3GB~:7238円 (最大割引後4928円)	● ~3GB:5588円 (最大割引後3278円) ● 3GB~:7238円 (最大割引後4928円)	● ~3GB:1078円 ● 3GB~20GB:2178円 ● 20GB~:3278円
無制限の例外に関する記載	eximoのデータ量をほかのデバイスとシェアできる「データプラス」[5Gデータプラス]を利用中の場合、ヘア回線の利用可能データは30GB (上限超過後はヘア回線の通信速度が最大1Mbps / 当月中)。	—	テザリング、データシェア、世界データ定額は合計30GBまで (上限超過後、テザリング、データシェア、世界データ定額の通信速度は最大128kbps / 翌月1日に順次解除)。	テザリング、データシェアは合計30GBまで (上限超過後、通信速度は最大128kbps / 当月中)。	—
通話オプション	● 5分通話無料オプション:880円 ● かけ放題オプション:1980円	● 5分通話無料オプション:880円 ● 国内通話かけ放題:1980円	● 通話定額ライト:2880円 ● 通話定額:21980円	● 準定額オプション:880円 ● 定額オプション:1980円	● 15分通話かけ放題:1100円 ● 国際通話かけ放題:980円 (非課税)
適用可能な主な割引や特典	● みんなドコモ割:最大-1100円 (3回線以上の場合) ● ドコモ光セット割 / home 5Gセット割:-1100円 ● dカードお支払い割:-187円	● ドコモ光セット割 / home 5Gセット割:-1100円 ● dカードお支払い割:-187円	● 家族割プラス:最大1100円 (3回線以上の場合) ● auスマートバリュー:-1100円 ● au PAY カードお支払い割:-110円	● 新みんな家族割:最大-1210円 (3回線以上の場合) ● おうち割 光セット:-1100円	● 「楽天市場」利用時のポイントが最大3倍 ● 楽天モバイル紹介キャンペーン:招待者に7000ポイント+紹介される人に6000ポイント

MNO各社は「通信容量無制限」プランを打ち出しています。「eximo」「使い放題MAX5G/4G」「メリハリ無制限」は使用容量が3GB未満、「Rakuten最強プラン」は3GB未満、20GB未満で月額料金が割引されます。「iirumo」は無制限の通信容量が用意されているわけではありませんが、複数プランが用意されており比較的安価に利用できます。

待望のUSB Type-Cに！ Pro譲りのDynamic Islandも魅力的

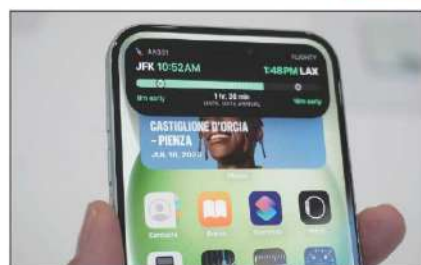
# iPhone 15 iPhone 15 Plus

SIMフリー版：12万4800円～ (Plus：13万9800円～)



## USB-Cは最大480Mbps

→接続端子は事前の噂通り、従来のLightningからUSB Type-Cに変更された。最大480MbpsのUSB 2対応ながら、DisplayPortに加えてiPad ProやMacBookなど周辺デバイスのケーブルを使い回せるようになった。



## Dynamic Islandに進化

←上位のProシリーズと同様、着信やアラート、アプリ動作に合わせてパンチホール部のサイズが変化するDynamic Islandを採用。通知領域内で各種操作が行えるため、よりストレスフリーな操作感を実現している。

製品	iPhone 15	iPhone 15 Plus
価格	12万4800円(128GB)～	13万9800円(128GB)～
サイズ	71.6×7.8×147.6mm	77.8×7.8×160.9mm
重量	171g	201g
ディスプレイ	6.1型有機EL 1179×2556ドット	6.7型有機EL 1290×2796ドット
画面輝度	1000ニット(最大2000ニット、屋外)	
SoC	A16 Bionic (5コアGPU)	
ストレージ	128GB/256GB/512GB	
カメラ	4800万画素(26mm)/52mm <sup>*</sup> 、F1.6)+1200万画素(13mm、F2.4)、 インカメラ1200万画素(F1.9)	
手振れ補正	○(光学式、センサーシフト式)	
通信規格	5G(sub-6)/4G	
SIM	nanoSIM+eSIM(eSIM×2)	
Bluetooth	5.3	
無線LAN	Wi-Fi 6(2×2 MIMO)	
生体認証	Face ID	
防水防塵/FeliCa	○(IP68)/○	
接続端子	USB Type-C(最大480Mbps)	
バッテリー	ビデオ再生：最大20時間 オーディオ再生：最大80時間	ビデオ再生：最大26時間 オーディオ再生：最大100時間
カラバリ	ブラック、ブルー、グリーン、イエロー、ピンク	

\* 1200万画素(クアドピクセルセンサーを利用)

噂通りUSB-Cに！  
カメラは3つの画角  
15も接続端子をUSB-Cに刷新。Proシリーズ譲りの「Dynamic Island」と、広角から1200万画素の2倍望遠を切り出せる4800万画素カメラを搭載し、6.7型の大画面モデルも用意。SoCは5コアGPUのA16に順当にスペックアップ、画面は60Hz駆動ながら輝度が向上した。背面ガラスに色を浸透させた、ポップな5色のカラバリも魅力のひとつ。

## 広角カメラは4800万画素

→新搭載の4800万画素カメラは、広角と1200万画素の2倍望遠が使い分けられる。





# iPhone 15 15 Proは買いか!?



ブルーチタニウム



ナチュラルチタニウム



ホワイトチタニウム



ブラックチタニウム

## 軽く美しいチタンのカラバリが魅力

チタンフレームの採用により、約19gの軽量化を果たした15 Proシリーズ。噂されていた「Ultra」は登場せず、前機種と同じ画面サイズのラインアップだ。

画面サイズは同じだが角が丸みを帯びており、狭額縁化で幅や厚さもわずかながら縮小。持ちやすさが向上している。

特に普段使いがメインなら、187gまで軽量化した通常版のProが魅力的だ。毎年恒例の予約合戦では、チタン本来のニュアンスを活かしたナチュラルチタニウムの人気が高く、即発売日出荷切れ。側面パネルのPDVコーティングによるブラシ加工も所有欲を満たしてくれる。

Hands On!!

# 15 Proの価値は軽量化! カメラと転送速度も

## 最新機能はまずProシリーズから

映像制作などのプロ向けに特化したハイエンドという立ち位置のProシリーズは、新機能もいち早く搭載する。最大の特徴は最大20Mbps転送のUSB 3対応とアクションボタンの搭載、Pro Maxの光学5倍望遠だ。

USB-C周りの仕様はようやくライバルに追いついた

## USB 3はProシリーズのみ

→高速転送に加えて4.5W給電に対応。多彩な機器を接続できる。



## 常時表示でスタンバイ

→常時表示ディスプレイのProは、スタンバイモードも便利に。



## 便利なアクションボタン

→アクションボタンにはボイスメモなどの機能が割り当てられる。



## Pro Maxは光学5倍望遠

→アトリプリズムレンズの搭載により、光学5倍ズーム撮影が可能。



## 空間ビデオ撮影は来年発売予定のXR機器登場待ち

Proシリーズの売りでもある4KのProRes撮影などを考えると、128GBモデルは実用性の面で厳しい。とはいえ、256GB版でも17万4800円と高く、大画面と光学5倍望遠を求めるなら、256GBからスタートのPro Maxが19万円弱とさらに高額だ。通常版の15は約12.5万からなので、機能差や処理性能差を考慮しても、やや割高感はある。

アナウンスされたXRデバイス「Vision Pro」向けの空間ビデオ撮影機能も、肝心の機器は来年発売予定。「いち早く最新」は先行投資という側面もあるだろう。

## 先行投資する価値は!?

→空間を撮影できるのは非常に魅力的だが、肝心の対応機器が来年度という先行投資感が残る。



# チタンフレームで約19g軽く！ A17 Proで処理性能も向上

ProシリーズはA17 Proに

▶毎秒最大65兆回の演算が可能で、GPU性能は20%向上。レイ 트레이シングにも対応し、ゲーミングスマホとしても魅力的。



# iPhone 15 Pro iPhone 15 Pro Max

SIMフリー版: 15万9800円~ (Pro Max: 18万9800円~)



## 新搭載のアクションボタン



↑サイレントスイッチは、カメラやライトなどの機能を割り当てられるアクションボタンに進化。状況に合わせてハプティックフィードバックも受けられる。

製品	iPhone 15 Pro	iPhone 15 Pro Max
価格	15万9800円(128GB)~	18万9800円(256GB)~
サイズ	70.6×8.25×146.6mm	76.7×8.25×159.9mm
重量	187g	221g
ディスプレイ	6.1型有機EL (120Hz) 1179×2556ドット(常時表示)	6.7型有機EL (120Hz) 1290×2796ドット(常時表示)
画面輝度	1000ニット(最大2000ニット、屋外)	
SoC	A17 Pro(6コアGPU)	
ストレージ	128GB/256GB/512GB/1TB	256GB/512GB/1TB
カメラ	4800万画素(24mm/48mm <sup>*</sup> 、F1.78) +1200万画素(13mm、F2.2)、 1200万画素(77mm、F2.8)、 インカメラ1200万画素(F1.9)、 LiDARスキャナー	4800万画素(24mm/48mm <sup>*</sup> 、F1.78) +1200万画素(13mm、F2.2)、 1200万画素(120mm、F2.8)、 インカメラ1200万画素(F1.9)、 LiDARスキャナー
手振れ補正	○(光学式、第2世代センサーシフト式/Pro Max(5倍):3Dセンサーシフト式)	
通信規格	5G(sub-6)/4G	
SIM	nanoSIM+eSIM(eSIM×2)	
Bluetooth	5.3	
無線LAN	Wi-Fi 6E(2×2 MIMO)	
生体認証	Face ID	
防水防塵/FeliCa	○(IP68)/○	
接続端子	USB Type-C(最大10Gbps)	
バッテリー	ビデオ再生: 最大23時間 オーディオ再生: 最大75時間	ビデオ再生: 最大29時間 オーディオ再生: 最大95時間
カラバリ	ブラックチタニウム、ホワイトチタニウム、ブルーチタニウム、ナチュラルチタニウム	

\* 1200万画素(クアドピクセルセンサーを利用)

チタン採用で軽量化  
データ転送も高速に

新SoC「A17 Pro」を搭載する15 Proシリーズは、処理性能と撮影機能の強化に加えて、チタンフレームの採用で軽量化も果たした。USB-Cの搭載で転送速度は最大20倍向上。カメラもPro Maxは120mmの光学5倍ズームに進化。来年度発売予定の空間コンピュータ「Vision Pro」向けの空間ビデオ撮影に対応するのも注目ポイントだ。

## USB-Cの転送速度は最大20倍

▶最大10Gbps転送のUSB-C対応は15 Proシリーズのみ。大容量の4K動画転送もラクラク。





# iPhone 15 15 Proは買いか!?

## 撮影の楽しみが広がる

→52mm相当の2倍望遠は、料理や動物撮影などで活躍する画角。



## 大画面のPlusも用意

→6.7型のPlusもラインアップ。大画面派も選択しやすい。



## 接続機器の選択肢が拡大

→転送速度は前機種と同じだが、25W給電と対応機器拡大が利点。



## 画面はさらに高輝度化

→最大画面輝度は15 Proシリーズと同様。屋外でも見やすい。



## デジタルズームは不要

→光学のみで3つの画角を切り替えられるのもうれしい進化点。



## 色をガラスに浸透

→ブラックはあるが、カラバリにホワイトがないのも特徴的だ。



## 軽さも魅力のひとつ

→Proシリーズ比で最大20g軽量。普段使いでの重量差は大きい。



## ポートレートも強化

→次世代のポートレート写真撮影に対応。面倒な切り替えも不要だ。



## Proと明確に差別化

→ブラック以外のモノトーンを排したポップなカラバリは、チャンクのProと印象が大きく異なる。



Proシリーズ譲りの通知領域と画面輝度向上、USB-Cの採用やSOCの底上げでスベックアップを果たした15は、「普段使いならコレ」という高バランス。14シリーズで目立った強みと弱点という凹凸をキレイにならした印象だ。14シリーズで明確になったProとの差別化も進み、プロの制作現場なら文字どおりPro、日常用途なら通常版という選択で間違いはない。

**14の不满点を解消する大幅な進化**  
14 Proシリーズから「Dynamic Island」やSOCのA16を引き継いだ15。最大の強化点は、ようやくライバルに追いついた4800万画素カメラだろう。クアッドピクセルを活用して1200万画素の2倍望遠を切り出し、影が入りがちな料理写真などが撮影しやすくなった。

USB-Cは最大540Mbps転送のUSB 2だが、最大25W給電に対応。ただし、Proシリーズと仕様が異なる点には注意したい。使い勝手に直結する軽さも、171gからと標準的。13mm厚がデイスコンとなった現在、コンパクト派の乗り換え先としても魅力的だ。

**より軽く、よりカラフルでポップに**  
デジタルズームを使わず3つの画角を活用でき、いちいちポートレートモードに切り替えずともフォーカス機能と被写界深度コントロールが使える次世代のポートレート写真が撮影可能。広角カメラの強化で、LiDARと光学望遠が不要なら、より低価格な15がベストバランスだろう。

軽くなったProシリーズよりさらに16〜20g軽いのも、15を選択する理由のひとつ。SOCはA16で処理性能を底上げ。端子の刷新も含めて前モデルの弱点や不満点を解消した順当進化という印象だ。価格も大画面モデルが14万円弱から入手可能。高バランスが光る事実上の標準機器だ。

**不満点を潰した正当進化の15は事実上の標準に**  
処理性能はハイエンドクラスながら、ミドルレンジスマホが4800〜5000万画素カメラを搭載する状況で、カメラが弱点だった通常版がようやく順当に進化。Proシリーズ譲りの通知領域と画面輝度向上、USB-Cの採用やSOCの底上げでスベックアップを果たした15は、「普段使いならコレ」という高バランス。14シリーズで目立った強みと弱点という凹凸をキレイにならした印象だ。14シリーズで明確になったProとの差別化も進み、プロの制作現場なら文字どおりPro、日常用途なら通常版という選択で間違いはない。

**Hands On!!**  
**15の強みは順当進化！機能底上げが大きな利点**